

令和3年度研究・教育活動報告

アーウィン マーク

研究成果 (論文)

Japanese Apophonic Compounds' in Journal of Japanese Linguistics 37: 25-67 (2021/04)

教育, 地域連携等の活動

研究・教育活動に関するコメント

相沢 直樹

研究成果

教育, 地域連携等の活動

@基盤教育

ロシア語 I (2), ロシア語 II (2)

@学部専門科目

ロシア文化論, グローバル・スタディーズ基礎講義 (オムニバス), ロシア文化演習, ロシア語学演習, ロシア語講読

@学会

日本ロシア文学会理事 ※2021年10月まで

日本ロシア文学会編集委員長 ※2021年10月まで

日本ロシア文学会編集委員

日本比較文学会学会賞選考委員

@社会連携

新宿区文化観光課主催の島村抱月生誕150年記念イベント「島村抱月, 松井須磨子と芸術座」において, 講演「抱月と須磨子の芸術座」(YouTube「新宿区チャンネル」上でオンライン配信)

研究・教育活動に関するコメント

天野 尚樹

研究成果 (著書)

【共著】池 炫周 直美, エドワード・ボイル編『日本の境界: 国家と人びとの相克』北海道大学出版会, 2022年。

【共著】Akihiro Iwashita et. al., eds., Geopolitics in Northeast Asia (London: Routledge, 2022).

【共著】白木沢旭兎編『日ソ戦争史の研究』勉誠出版, 2023年近刊。

【共著】原暉之ほか編著『日本帝国の膨張と縮小』北海道大学出版会,2023年近刊。

研究成果（論文）

Naoki Amano, "Sakhalin / Karafuto," in Oxford Research Encyclopedia of Asian History (Oxford University Press, 2016), article published October 19, 2022. 査読有, 招待有。

研究成果（学会発表）

アmano H.«Что такое Харамитоги? Как исследовать и понять Советско-японскую войну 1945 г. на Карафутто» (2022年12月, Международная научная конференция «Третьи краеведческие чтения» 国際学術会議「第三回郷土研究大会」, 於サハリン州郷土博物館（オンライン参加）)

教育, 地域連携等の活動

【地域連携（講演）】「ロシア・ウクライナ戦争：プーチンの世界, 日本と世界」(2022年8月, 山形市平和都市宣言事業, 山形市立図書館市民講座, 於山形市南部公民館)。

【地域連携（講演）】「ウクライナ人とは誰か?あるいは日本人の基準」(2023年1月, 山形県国際交流協会多文化理解講座「世界をのぞけば…」, 於山形県国際交流センター)。

研究・教育活動に関するコメント

生田 慶穂

研究成果（著書）

項目執筆「新撰菟玖波集」千葉一幹・西川貴子・松田浩・中丸貴史編『日本文学の見取り図 宮崎駿から古事記まで』ミネルヴァ書房 2022年2月

研究成果（論文）

生田慶穂「最上義光と里村紹巴の接点—文禄二年のふたつの連歌—」『日本文学研究ジャーナル』19号 2021年9月

研究成果（その他）

科研費（若手研究・代表）「最上義光の連歌活動—里村紹巴との交流に注目して」2021～2024年度

科研費（基盤研究B・分担）「ブラジル国際俳句の多様性とラディカルな展開—日本韻文史とのかかわりから—」2021～2025年度

YU-COE(M)（分担）「移民社会における多文化共生論」2021年度

教育, 地域連携等の活動

担当授業：

くずし字入門, 日本文学基礎演習, 日本古代中世文学演習, 日本古代中世文学特殊講義, 課題演

習 (書物文化環境), 日本古典文学特論, 日本古典文学特別演習

地域連携:

「最上義光と連歌—戦乱の世に見た夢—」 山形大学公開講座 [人文社会科学部] 憧憬の文学 文学の憧憬 第1回 2021年6月1日

「最上義光と里村紹巴の接点—文禄二年のふたつの連歌—」 山形大学都市・地域学研究所公開講座 山形の魅力再発見プロジェクト パート19 2021年7月31日

イベント企画運営:

「日本に暮らす移民」映画上映会 (北角裕樹氏・藤元明緒監督とのQ & Aセッション付き) 2021年11~12月

「日本に暮らす移民」映画上映会 Part 2 (藤元明緒監督とのQ & Aセッション付き) 2021年12月~2022年1月

研究・教育活動に関するコメント

着任2年目となり, 研究・教育活動ともに軌道に乗った。最上義光, ブラジル国際俳句, 多文化共生論と, ジャンルの異なる3つのプロジェクトに関わった。コロナ禍が続いていたが, オンライン形式と対面形式を織り交ぜながら, 公開講座・映画上映会など多くのイベントを行うことができた。

池田 弘乃

研究成果 (著書)

単著)

『ケアへの法哲学—フェミニズム法理論との対話』(ナカニシヤ出版, 2022年2月)

共著)

志田陽子・榎澤幸広・中島宏・石川裕一郎編『映画で学ぶ憲法Ⅱ』(法律文化社, 2021年6月)

担当範囲「「正義などない? それでも権利のため闘い続けるんだ」——性的マイノリティとホーム」158-161頁

永瀬伸子・和泉ちえ他『人文社会科学とジェンダー (学会会議叢書29)』(日本学術協力財団, 2022年1月)

担当範囲「法学とジェンダー」85-94頁

研究成果 (論文)

「もうすぐ, 今日にでも」:映画『チョコレートドーナツ』に寄せて」(『映画で学ぶ憲法Ⅱ』ウェブラウンジ, 2021年6月) ※法律文化社ウェブサイトより閲覧可

「性の「普通」をアップデートし続けていくために——学び舎におけるLGBTQ——」(『山形教育』389号12-15頁, 2021年9月)

「法を忘れることについて: マーサ・ヌスバウム『高慢の城塞』に寄せて」(『ジェンダー研究』[東海ジェンダー研究所] 24号153-163頁, 2022年2月)

研究成果（学会発表）

「フェミニズム法理論と感情：「法外な感情」を手がかりに」（2021年度日本法哲学会学術大会，2021年11月21日，オンライン開催）

教育，地域連携等の活動

教育）

担当科目

専門：「私法入門」，「法哲学1」，「法哲学2」，「法哲学演習」，「法務実践演習e（ジェンダー法務実践）」

基盤：「人間の「性」と現代の法（人間を考える）」，「「セクシュアリティと法」入門（法学）」

非常勤講師：東北医科薬科大学（「患者安全・医療倫理学」のうち2回担当），東北大学法科大学院（「ジェンダーと法演習」のうち3回担当）

地域連携）

様々な機関から「性の多様性」についての講演依頼があり，可能な限り対応した（研究室来訪での対応，オンラインでの対応については省略する）。

平和と憲法をまもる信州大学人の会第64回シンポジウム（2021年5月11日）

河北町教育研究所保健部会研修会（2021年9月21日）

山形大学附属小学校（2021年11月11日）

山形県男女共同参画センター・チェリア（2021年12月4日）

山形市男女共同参画センター・ファーラ（2022年2月17日）

研究・教育活動に関するコメント

法務実践演習eでは，ゲスト講師として松井愛氏をお招きし，「地方自治とジェンダー」について討議しました。授業実施にあたり今野健一教授，中島宏教授にご協力いただきました。ありがとうございます。

池田 光則

研究成果

教育，地域連携等の活動

(a) 担当授業

- ・学部専門教育科目：言語学概論，言語学特殊講義 a，ラテン語1，ラテン語2
- ・基盤共通教育科目：言語学概論（言語学），英語
- ・大学院：言語学特論，言語学特別演習

(b) 卒業論文指導

- ・役割語とアイデンティティー自称詞の使用を中心として

研究・教育活動に関するコメント

石澤 靖典

研究成果（その他）

科研費基盤研究 C「フィレンツェ美術にみるダンテ『神曲』の視覚化－彼岸の測量と地理学を中心に」研究代表, 2019年-2021年（事業期間3年のうち3年目）

教育, 地域連携等の活動

〔担当授業〕

- 学部専門科目：芸術文化概論, 芸術文化基礎演習, 芸術文化演習 a, 芸術文化特殊講義 b, 課題演習 (芸術文化), 芸術文化演習 b, 表象文化概論, 表象文化演習, 人間文化入門総合講義, 卒論演習 1, 2
- 基盤教育科目：西洋美術の歴史, 西洋美術鑑賞入門
- その他：オープンキャンパス模擬授業

〔卒論指導〕

5名担当 (カラヴァッジョ《聖パウロの回心》の革新性―描き直しの意図をめぐって―, アルテミジア・ジェンティレスキの〈ユーディット〉―聖母の予型論的解釈を中心に―, 尾形光琳『紅白梅図屏風』―造形描写から見る光琳の意識―, VTuberのフィクショナルなリアティ, 1985年アニメ映画『銀河鉄道之夜』論―映像における抽象性の表現)

〔学外委員〕

山形文化遺産活用事業実行委員会委員

研究・教育活動に関するコメント

科研費基盤研究 C「フィレンツェ美術にみるダンテ『神曲』の視覚化－彼岸の測量と地理学を中心に」の研究課題については、フィレンツェ、ローマでの調査を予定していたが、ウイルス感染拡大にともなう海外渡航の制約などにより、思うように遂行することができなかった。そのため研究期間を延長し、次年度に課題を繰り越すこととなった。教育活動では、オンラインを活用した新たな授業方法を模索する期間となった。

和泉田 保一

研究成果（論文）

「地方自治体の芸術祭への関与についての行政法的検討―「表現の不自由展・その後」を題材にして―」『地方自治叢書34 地方自治の諸相』（敬文堂・2021年）pp.73-97

研究成果（学会発表）

2021年度日本エネルギー法研究所・原子力の安全性に係る法的論点検討班第9回研究会報告「「パートナーシップ型」合意形成モデルの実践と課題（後編）イギリスにおける高レベル放射性廃棄物地層処分施設設置同意プロセスについて」（2022年3月8日報告）、リモート（Webex）稲葉馨教授・互理格教授古稀記念論文集第3回オンライン研究会報告「取消訴訟における処分性と訴えの利益との関係についての一考察」（2021年9月4日報告）、リモート

教育、地域連携等の活動

・担当授業

行政法1, 行政法2, 行政法3, 行政法4, 行政法演習, 総合講座Ⅱ（「行政法」）, 基盤共通教育基幹科目「市民の共生と行政」（共生を考える）

・地域連携活動

[審議会等委員]

山形県「再生可能エネルギーと地域の自然環境や歴史・文化的景観等との調和に関する条例（仮称）」策定検討委員会委員（2021年7月～11月）

新庄市情報公開制度検討委員会のアドバイザー, 2020年10月～12月)

山形県消防協会第三者委員会委員（2020年2月～2022年7月）

山形県公文書管理委員会委員（R1年12月～）

山形県介護保険審査会委員（H31年4月～）

山形県退職手当審査会委員（H30年11月）

山形県公文書管理に関する条例制定検討委員会委員（H30年11月～翌3月）

全国健康保険協会山形支部評議委員（議長）（H30年10月～R2年9月）

鶴岡市新文化会館建設に関する第三者調査・検証委員（H30年5月～11月）

山形大学人文社会科学部倫理審査会委員（H30年4月～）

山形市都市振興公社評議員（継続）

山形県情報公開・個人情報保護審査会委員（継続）

山形県議会情報公開・個人情報保護審査会委員（継続）

山形大学 COI 社会システム研究委員会委員（継続）

山形市行政不服審査会委員（継続）

上山市行政不服審査会委員（継続）

上山市情報公開・個人情報保護審査会委員（継続）

長井市行政不服審査会委員（継続）

西置賜行政組合不服審査会委員（継続）

[外部研修講師]

国土交通省北陸地方整備局職員研修「法律」（7月）

研究・教育活動に関するコメント

引き続き、新型コロナウイルス感染症の蔓延に起因して、研究、教育活動とも多大な影響を受けた。その一例として、関連する研究報告や、東北大学関係の研究報告が遠隔開催となった。

研究活動については、Numoの2020-2021年度受託研究「[「パートナーシップ型」合意形成モデルによる地層処分事業における考慮要素の特定をめぐる法的研究」（研究代表者友岡史仁日本大学教授）の連携研究者として、一応のまとまりがついた。

また、研究活動の成果としては論文1本と学会・研究会報告のみであったが、芸術文化に関する論文を公表できたことは幸甚であった。また、実際には年度内に校正を終えながら出版が翌年度（2022年度）となった2論文がある。

今村 真央

研究成果 (著書)

【翻訳】

アンソニー・リード 著, 太田淳・長田紀之監訳, 青山和佳・今村真央・蓮田隆志訳『世界史のなかの東南アジア 歴史を変える交差点』(上) 名古屋大学出版会, 398頁

アンソニー・リード 著, 太田淳・長田紀之監訳, 青山和佳・今村真央・蓮田隆志訳『世界史のなかの東南アジア 歴史を変える交差点』(下) 名古屋大学出版会, 386頁

(今村の担当箇所は上巻 p 1-89, p150-189)

研究成果 (論文)

今村真央「辺境からみるミャンマー政変：内戦史のなかのクーデター」『世界』948号, p.230-240 (2021年9月号)

今村真央「終わりがみえないミャンマーの軍事政権」『アジア太平洋論叢』24号, p.251-254, (2022年3月)

研究成果 (学会発表)

【講演】

オンライン公開講座：「ミャンマー：軍政と民族問題」〈パルシク〜知る・繋がる〜ミャンマー連続オンライン講座〉 (2022年1月7日)

【非常勤講師】放送大学での集中講義「東南アジア通史」(2022年1月)

【査読】『東南アジア歴史と文化』

研究成果 (その他)

“書評 The Hidden History of Burma: Race, Capitalism, and the Crisis of Democracy in the 21st Century. By Thant Myint-U.” The Journal of Asian Studies, Volume 80, Issue 2, May 2021, pp. 528 - 531. DOI: <https://doi.org/10.1017/S0021911821000504>

教育, 地域連携等の活動

【担当科目】

「東南アジア地域論」「東南アジア地域論演習」「国際協力論」「国際協力論演習」グローバル・プロブレマティク演習, 東南アジア文化論特論, 東南アジア文化論特別演習, グローバル・スタディーズ基礎講義 (オムニバスの1回を担当)

基盤：「ドキュメンタリー映画から学ぶ世界の見方：山形国際映画祭傑作選 (人間を考える)」

【卒業論文】学部生卒論主査9名, 副査5名

【講演会・公開イベント企画】

小白川キャンパスでのミャンマー関連公開イベント：12月

「日本に暮らす移民」上映会と藤本明緒監督との質疑応答 (オンライン)

北角祐樹氏講演企画・運営・司会 (12月3日)

(生田慶穂先生との合同企画・運営・司会。共催 YU-COE (M) 移民社会における多文化共生論)

【地域連携】

山形県教職員組合：「ミャンマーの闘い」(2021年12月11日)

【学会運営】

東南アジア学会北海道・東北地区委員 (地区例会開催に携わった)

【地域での出張講義】

山形県公立大学法人外部資金セミナー「研究費申請書の書き方」(2021年8月)

研究・教育活動に関するコメント

春にミャンマーでのクーデターが大きな話題となり、対応に追われる一年となった。

ミャンマーに関して論説を2本書いた。一本は『世界』に掲載され、朝日新聞の論壇時評(8月)のトップで取り上げられた。もう一本の論説『アジア太平洋論叢』も、掲載以来アクセス・ランキングのトップ5に入っている。Reutersからもインタビューを受け、英文記事で引用された。

ミャンマー支援を目的に立ち上げたオンライン募金活動(クラウドファンディング)が全国的に大きな反響を呼び、全国でメディアに取り上げられた。(朝日新聞と毎日新聞にインタビューされ、全国版で繰り返し記事として取り上げられた。)また赤旗などでは長いインタビュー記事が掲載された。)主な新聞雑誌記事・テレビ番組は以下の通り。

「ミャンマー市民の『応援歌』にネットを通じた寄付が続々(朝日新聞4月18日)

「日本からの寄付『希望の光』(朝日新聞4月28日)

「ミャンマー市民を支援」(赤旗5月1日)

「ミャンマー支援、目標の10倍」(毎日新聞5月19日)

「日本の慈愛、希望の光 山形大・今村教授ら」(毎日新聞6月1日)

「ミャンマーの市民を救いたい」(「NHK山形やままる」2021年6月)

「日本の『ミャンマー推し』をつないだクラファンが驚異の5500万円を調達」(クーリエエジャポン2022年1月)

教育者としても担当する授業(国際協力論)がNHK-BSの特集番組で取り上げられた。(2022年1月30日放映)

時事問題への論説を全国レベルでも地域レベルでも多くこなし、学会よりも一般市民に向けてどう書く・話すべきかを考える一年となった。

5年かけた翻訳プロジェクトも出版された。

岩田 浩太郎

研究成果(学会発表)

[講演]

- ・「文化財と生涯学習——柏倉家・文化行政・地域——」(第8回村山地区社会教育推進協議会兼生涯学習振興村山ブロック大会、於中山町中央公民館、オンライン講演、2021年9月)
- ・「山形と紅花の歴史」(山形県立博物館プライム企画展「紅と藍—くらしを彩る—」記念講座・連続3回、於山形県立博物館講堂、2021年11月)

研究成果（その他）

〔解説〕

- 「最上紅花がもたらしたもの—歴史の条件，ささえた人々—」（『紅花の守人 べにばなのもりびと』映画「紅花の守人」製作委員会，2021年10月，6～9頁）
- 「国指定重要文化財旧柏倉家住宅と黒塀のまちなみ」（『町勢要覧』山形県中山町，2022年3月，10～11頁）

〔外部資金〕

- 科学研究費補助金・基盤研究(C)「日本近世特産物の生産・流通・消費システムの展開と特徴—紅花を事例に一」（2020～2023年度，研究代表者）合計4,030,000円（直接経費3,100,000円，間接経費930,000円）

教育，地域連携等の活動

〔担当授業科目〕

- 基盤教育科目：基幹科目「生存と共生の歴史（共生を考える）」，基幹科目「山形と紅花の歴史（山形から考える）」
- 専門教育科目：日本経済史1・2，地域経済史，日本経済史演習，総合講座Ⅲ（オムニバス・第12回担当）
- 大学院教育科目：日本近世史特論，日本近世史特別演習
- アドバイザー担当教員（3・4年生），卒業研究指導（1名）

〔委員会活動，その他〕

- 全学：一般入試後期小論文（人文社会科学部社会系コース）特別校正委員（甲）
- 学部：「自治体経営」担当教員

〔社会活動〕

- 第8回村山地区社会教育推進協議会兼生涯学習振興村山ブロック大会講師（2021年9月）
- 映画「紅花の守人」製作への協力（時代考証の助言，パンフレット執筆など）
- 山形県立博物館プライム企画展「紅と藍—暮らしを彩る—」記念講座（連続3回）講師（2021年11月）
- 地域情報誌フリー・マガジン『gatta!』取材への対応（大風印刷，2022年3月号「特集 帰り荷でやってきた宝」のインタビューへのコメント及び校正，歴史考証の助言など）
- 財団法人三浦新七博士記念会・三浦記念賞選考審査会審査員（2012年4月～継続中）
- 山形県中山町旧柏倉家住宅保存活用会議委員（2021年3月～継続中）
- 山形県中山町柏倉家文書目録整理員（2018年2月～継続中）
- 山形県中山町旧柏倉家住宅建物パンフレット校正依頼への対応（歴史解説部分に関する修正指摘など）
- 山形県中山町『町勢要覧』執筆依頼への対応（国指定重要文化財旧柏倉家住宅部分の執筆）
- 山形県中山町岡地区の岡観音堂文書調査依頼への対応（古文書解説・解説など。中山町指定文化財指定への支援）

- NPO 法人黒塚の里山保存会顧問（2020年8月～継続中。「岡雨印」商標登録への協力）
- 山形県白鷹町清水屋惣左衛門家からの調査依頼への対応（清水屋文書調査及び解読・考察など）
- 山形県尾花沢市芭蕉清風歴史資料館企画展示に関する調査依頼への対応（鈴木八右衛門家文書の解読・解説など）
- 山形県東田川郡庄内町清河八郎関係文書に関する調査依頼への対応（古文書の搜索・解説など）
- 天童市立長岡小学校紅花学習に関する協力依頼への対応（紅花の衰退要因に関する解説など）
- 山形商工会議所『商工月報』連載企画「日本一の紅花商人 長谷川家とその時代」への協力（助言・資料提供、原稿添削チェックなど）
- 奥羽史料調査会世話人（2002年～継続中）
- 宮城県村田町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（2013年12月～継続中、重伝建特定物件除却案件をめぐる検討・審議ほか）
- 宮城県村田町大沼正七家文書目録整理員（2016年4月～継続中）
- 宮城県村田町の村田町歴史みらい館への協力（丹野東右衛門家文書の整理・撮影など）

研究・教育活動に関するコメント

2021年度もコロナ禍により研究・教育活動のあり方が従来とは大きく変化した。

教育活動では、自己の体調の問題もあり感染予防のため、演習はzoomで、基盤教育科目及び演習以外の学部専門教育科目や大学院教育科目も全てオンデマンド方式で、それぞれ実施した。

研究活動もコロナ禍のため、2021年度も科研費・基盤研究（C）で予定していた全国各地の調査はできず、専ら山形県内での一部調査に専念した。山形県中山町の旧柏倉家住宅（国指定重要文化財）の活用保存に関わっては例年通りに調査や助言を町役場職員・NPOと連携しながら実施した。

社会活動では、コロナ禍のため1年延期で2021年度に実施できた山形県立博物館プライム企画展「紅と藍」の3回連続講座を11月におこなえた。また、村山地区社会教育推進協議会兼生涯学習振興村山ブロック大会で約130名の県内社会教育関係者に対して、文化財を活用した生涯学習や地域活性化の取り組みにつき自己の経験をふまえた講演をし、国や県の文化行政の問題点や課題についても提言を試みた。その他、各欄に記載したように、様々な社会連携の活動をおこなった。

大杉 尚之

研究成果（論文）

大杉尚之。(2021)。心理学系学部の大学生のためのlab.jsによる実験プログラミング学習環境の構築。基礎心理学研究, 40, 3-9。

大杉尚之・本多薫・山本陽史・小林正法。(2021)。高大連携授業を通じた探究活動の相互連携の試み ―山形大学と米沢興譲館高等学校を事例として―。山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 18, 37-50。

高萍・大杉尚之。(2021)。他者の評価が女子大学生の瘦身願望に与える影響。山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 18, 1-18。

小林正法・大杉尚之(2021)。オンライン実験・調査への参加・作成を介した心理教育。映

像情報メディア学会誌, 75, 474-479. (依頼論文)

大杉尚之・小林正法 (accepted). GUI ベースの web 実験作成ツール (lab.js) の紹介と実践. 認知心理学研究, 19, 1-15. (* 同等貢献著者)

Osugi, T., & Kawahara, J. I. (2021). The Spill-over Effect of the Formal Bowing Motion on Subjective Facial Attractiveness. Japanese Psychological Research.

大杉尚之. (2021). 心の健康に関する相談相手の実態と相談窓口の認知度について: 山形市民と山形大学生の事例. 山形大学人文社会科学年報, 18, 163-174.

大杉尚之. (2021). 山形大学小白川キャンパス周辺における小学生保護者の不安経験と大学生の問題認識. 山形大学人文社会科学年報, 18, 205-215.

研究成果 (学会発表)

大杉尚之・小林正法. "ヒト" のところをスマホのブラウザで計ってみよう! 2021年度 日本基礎心理学会公開シンポジウム「ところ」ってそうになっているのか! -基礎心理学が拓く「ところ」の不思議, オンライン開催(2021年10月) 話題提供者.

小林正法・国里愛彦・大杉尚之・西山慧・紀ノ定保礼・遠山朝子. TWS「はじめてのオンライン心理学実験・調査: jsPsych と lab.js を用いた作成」日本心理学会第85回大会, オンライン, (2021年9月)。話題提供者.

大杉尚之・河原純一郎 ウェブ実験によるお辞儀効果の再現性の検証. 日本心理学会第85回大会, P-03, オンライン, (2021年9月)。

大杉尚之・河原純一郎 お辞儀が印象形成に及ぼす影響の文化差. 日本認知心理学会第19回大会, P 2 C03, オンライン, (2022年3月)。

研究成果 (その他)

大杉尚之. 山形大学人文社会科学の学生の相談相手, 相談窓口の認知度の現状 山形大学人文社会科学部 FD ワークショップ「学生からの SOS を見逃さない～若者の生きにくさと自殺予防～」

教育方法検討部会・安全安心価値創造研究所・山形県精神保健福祉センター共催, オンライン, (2021年8月)。話題提供者.

教育, 地域連携等の活動

山形県精神保健福祉センターが主催する「子ども・若者の自殺対策推進に関する意見交換会」にて意見交換を行ないました (2022/03/10) (大杉尚之 (山形大学人文社会科学部), 佐藤宏平氏 (山形大学地域教育文化学部), 安保 寛明氏 (山形県立保健医療大学 大学院保健医療学研究科精神看護学), 渡辺 祐子氏 (山形県精神保健福祉センター))。

令和3年度山形大学優秀教育者賞に選ばれました (2021/11/30)。

法政大学にて特別講義を行いました「[GUI ベースの web 実験作成ツール (lab.js) ワークショップ]」(2021/11/29)。

米沢興譲館高等学校の学生さんを対象に, 「異分野融合サイエンス」(通称 FS) の模擬講義 (4 回目) を行いました (2021/11/11)。

米沢興譲館高等学校の学生さんを対象に、「異分野融合サイエンス」(通称FS)の模擬講義(3回目)を行いました(2021/10/11)。

米沢興譲館高等学校の学生さんを対象に、「異分野融合サイエンス」(通称FS)の模擬講義(2回目)を行いました(2021/08/20)。

課題演習(地域情報)の授業で、山形大学の学生と興譲館高等学校の学生間で意見交換を行いました(2020/07/14)。

米沢興譲館高等学校の学生さんを対象に、大杉尚之教員が「異分野融合サイエンス」(通称FS)の模擬講義(1回目)を行いました(2021/06/17)。

プレスリリース「地域社会における安心・安全意識調査を実施～学術的知見を活かした住みよいまちづくりへの提言～」(2021/04/01)(https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/information/press/20210401_01/02/)。

研究・教育活動に関するコメント

卒業研究

オンライン面接における評価者の態度と人数が心理状態に及ぼす影響

周囲の援助候補者数が援助要請行動に与える影響

パーソナリティ特性と内集団バイアスの関連

説得的コミュニケーションが心理的リアクタンスに及ぼす影響

ソーシャルゲームにおける没頭および課金行動場面に関する探索的検討

小笠原 奈菜

研究成果(著書)

『中田裕康先生古稀記念 民法学の継承と展開』,共著者:岡本裕樹,沖野眞巳,小笠原奈菜,他33名,有斐閣,329頁~348頁「契約不適合責任と情報提供義務違反の競合の際の損害賠償額の算定」(2021年8月)

研究成果(論文)

「情報提供義務違反の効果としての減額—ドイツにおける「culpa in contrahendoによる減額」の導入可能性—」,小笠原奈菜,山形大学法政論叢75号(山形大学法学会)1頁~26頁(2022年3月)

研究成果(学会発表)

1. 「金融サービス仲介業の利用者保護について」,小笠原奈菜,ネットとうほく消費者被害事例ラボ,オンライン(2022年3月)
2. 「情報提供義務違反の効果としての代金減額」,小笠原奈菜,国際取引法研究会,オンライン(2021年11月)

研究成果(その他)

「消費者法情報」現代消費者法53号(民事法研究会)56頁~69頁(2021年12月)

教育, 地域連携等の活動

[担当授業科目]

- 専門教育科目: 民法基礎 (契約法), 民法基礎 (総則), 民法基礎 (不法行為法), 法務実践演習 a (消費者法務実践), 民法演習 (オムニバス方式) 総合講座 II (法律)

[地域連携]

消費者市民ネットとうほく理事, 検討委員

山形県消費生活審議会委員 (委員長)

山形県公益認定等審議会委員 (議長代理)

山形県個人情報保護運営審議会委員 (会長代理)

消費者市民ネットとうほく主催「ネットとうほく消費者被害事例ラボ」講師 (2022年3月)

[外部資金獲得]

科学研究費 基盤研究 (C) 「契約不適合に基づく減額請求規定の活用による消費者保護」(研究代表者)

研究・教育活動に関するコメント

研究については, 共著1冊, 論文1本を執筆することができ, 口頭報告を2件行なうことができた。口頭報告は昨年度に引き続きコロナ禍でオンラインであったが, 時間ロスがほぼなく研究会に参加できるようになったのはありがたかった。

地域連携について, 適格消費者団体の理事として, 特定適格消費者団体を目指し活動を続けるとともに, 地域の方々への消費者問題の理解を深めるための講演をすることができた。その他, 山形県消費生活審議会の委員長となり, 2022年4月1日からの成年年齢引き下げへの対応について, NHK山形, 山形新聞, Stuttgerter Zeitung 等の各種媒体で発信を行なった。

教育について, 卒論執筆学年の演習担当学生8名を含め計15名で演習を行なった。遠隔と対面を併用することにより, 就職活動等で欠席せざるを得ない学生が格段に減少した。また, ゼミの卒業生が司法試験, 公認会計士試験に各々合格した。

小幡 圭祐

研究成果 (著書)

【単著】

- 小幡圭祐編著・佐藤琴編『小白川キャンパスの100年 旧制山形高等学校から山形大学への歩み』(ふすま同窓会・山形大学附属博物館, 2021年10月31日)

【分担執筆】

- 徳竹剛・高島笙・佐藤信夫・小幡圭祐・加藤諭・河西晃祐・大迫章史・佐藤和賀子・安達宏昭・昆野伸幸『岩沼市史 第3巻 通史編Ⅲ 近代・現代』(岩沼市, 2022年3月31日)

研究成果 (論文)

【査読有】

- ・小幡圭祐「大久保利通と内務省勸農政策」(『日本史研究』706,2021年6月20日)
- ・小幡圭祐「旧制山形高等学校の学徒出陣」(『東北大学史料館研究報告』17,2022年3月20日)

【査読無】

- ・小幡圭祐「山形県の県都を建設したのは三島通庸か？それとも薄井龍之か？」(『山形史学研究』49,2021年8月31日)
- ・小幡圭祐「山形県に残る郡役所文書」(『山形県県史だより』19,2021年10月15日)
- ・小幡圭祐「〈書評〉徳竹剛著『政治参加の近代—近代日本形成期の地域振興—』」(『歴史』137,2021年10月25日)
- ・佐藤琴・小幡圭祐・堀井洋・小川歩美「継続的に稼働するデジタルアーカイブをつくりたい最弱の大学博物館の無謀な取り組み」(『デジタルアーカイブ学会誌』5-s2,2021年12月10日)

研究成果(学会発表)

- ・小幡圭祐「東北地方における移民(外国人労働者)受け入れをめぐる現状と課題」(YU-COE(M)「移民社会における多文化共生論」第2回研究会,2021年7月28日)
- ・小幡圭祐「近世・近代移行期の意思決定慣行に関する現状・課題・展望」(基盤研究C「近世近代・公私文書を通貫した意思決定慣行に関する総合的研究」第1回研究会,2021年9月21日)
- ・小幡圭祐「三島通庸の思想的考察—山形県令期を中心に—」(2021年度山形史学研究会大会,2021年9月23日)
- ・小幡圭祐「三島通庸県令期における山形県の電信と地域社会」(郵政歴史文化研究会分科会(第4分科会),2021年9月29日)
- ・小幡圭祐「山形大学附属博物館史序説」(2021年度東北史学会大会(日本近世近代史部会),2021年10月3日)
- ・小幡圭祐「大隈重信と大蔵省の政策立案・意思決定過程」(第97回内務省研究会,2021年10月9日)
- ・小幡圭祐「地方文書・区有文書から探る三島通庸の山形県政」(令和3年度山形大学附属博物館公開講座「山形大学附属博物館の眠れる史料を呼び起こす!」,2021年10月23日)
- ・佐藤琴・小幡圭祐・堀井洋・小川歩美「継続的に稼働するデジタルアーカイブをつくりたい最弱の大学博物館の無謀な取り組み」(第1回DAフォーラム,2021年12月19日)
- ・小幡圭祐「移民社会における多文化共生のための私案」(YU-COE(M)「移民社会における多文化共生論」第15回研究会,2022年1月12日)
- ・小幡圭祐「『日本人』と移民をめぐる歴史学的考察」(YU-COE(M)「移民社会における多文化共生論」第16回研究会,2022年1月26日)
- ・小幡圭祐「なぜ山形大学附属博物館が地域の記憶をアーカイブするのか？」(2021年度山形大学地域連携プラットフォーム構築プロジェクトキックオフフォーラム「はじめます,未来のまちと人のためのアーカイブづくり」,2022年2月11日)
- ・小幡圭祐「YU-COE(M)「移民社会における多文化共生論」のこれまでの活動と将来像」(国内大学オンライン会議2022「長引くCOVID-19禍における異文化交流の展望」,2022年2月21日)
- ・小幡圭祐「YU-COE(M)「移民社会における多文化共生論」の今年度の活動と将来展望」(海

外提携校オンラインサミット2022「長引く COVID-19禍における異文化交流のあり方」,2022年3月7日)

- 小幡圭祐「太政官制下の意思決定慣行の実態と内閣制への展望」(基盤研究 C「近世近代・公私文書を通貫した意思決定慣行に関する総合的研究」第2回研究会,2022年3月24日)

研究成果(その他)

【外部資金・共同研究】

- 小幡圭祐「三島通庸の思想と行動に関する総合的研究」(日本学術振興会 科学研究費助成事業(若手研究), 研究代表者,2021年4月-2026年3月)
- 籠橋俊光・加藤諭・小幡圭祐「近世近代・公私文書を通貫した意思決定慣行に関する総合的研究」(日本学術振興会 科学研究費助成事業(基盤研究 C), 研究分担者,2021年4月-2024年3月)
- 生田慶穂・池田弘乃・今泉智子・今村真央・内海由美子・小幡圭祐・源島穰・中澤信幸・中村文子・中村篤志・本多広樹・松本邦彦・丸山政己・尤銘煌「移民社会における多文化共生論」(山形大学 YU-COE(山形大学先進的研究拠点)(M), 研究代表者,2021年4月-2023年3月)
- 佐藤琴・新宮学・小幡圭祐・押野美雪・小林文雄・後藤真・三上喜孝「山形において近代に収集された歴史資料の研究と活用—長井政太郎収集資料と林泉文庫—」(国立歴史民俗博物館 総合資料学奨励研究, 研究分担者,2021年4月-2022年3月)

【学内委員】

- 附属博物館, 学芸研究員,2020年4月~ 継続中

教育, 地域連携等の活動

【教育】

○卒論指導

- 正指導=日本考古学2名・日本古代史4名・日本中世史1名・日本近世史2名・日本近代史6名
- 副指導=アジア史2名

○修論指導

- 副指導=アジア史1名

○担当授業

- 基盤共通教育=渋沢栄一から見た明治社会(人間を考える・共生を考える)(前期)
- 専門教育=日本近代史概論(前期)・日本近代史演習(前期・後期)・日本近代史特殊講義b(後期)・日本歴史文化論(前期・共担)・歴史学基礎演習a(前期・共担)・歴史学基礎演習b(後期・共担)・課題演習(歴史文化実習)(後期・共担)・博物館実習(集中・共担)・卒論演習(前期・後期)
- 大学院=日本近代史特論Ⅱ(前期)・日本近代史特論(前期)・日本近代史特別演習(後期)・歴史文化学特別研究Ⅰ(前期)・歴史文化学特別研究Ⅰ(後期)

○研究生受け入れ

- 中国人学生1名

【地域連携】

○学会・委員会等活動

- ・岩沼市史編集専門部会（近代・現代部会），調査執筆員，2012年10月～2022年3月
- ・東北史学会，評議員，2019年10月～ 継続中
- ・山形県文化財保護審議会，委員，2021年03月～ 継続中
- ・山形史学研究会，常任委員，2021年09月～ 継続中
- ・山形文化遺産防災ネットワーク，世話人，2021年10月～ 継続中

○学外での活動（高大・地域連携等）

- ・イザベラ・バード顕彰碑建立記念研修会（イザベラ・バード顕彰碑管理委員会・アルカディア街道 I B 倶楽部），2022年03月

2022年3月26日開催のイザベラ・バード顕彰碑建立記念研修会にて「山形県令・三島通庸の空間認識～イザベラ・バードとの対比から～」と題して講義を行った。

研究・教育活動に関するコメント

前年度は研究発表ができなかったことと外部資金が確保できなかったことが反省点でしたが，本年度は多くの研究発表を行い，外部資金も複数確保することができました。次年度も研究に教育に励みたいと思います。

柿並 良佑

研究成果（論文）

- ・《Rien que rien – en guise d'hommage à Jean-Luc Nancy》，Philosophy World Democracy, 27 september 2021. <https://www.philosophy-world-democracy.org/grace/rien-que-rien-en-guise-dhommage-a-jean-luc-nancy>
- ・「身振りの追憶—— Transir, transition」, 『思想』岩波書店, No. 1172, 2021年12月号, 特集「追悼 ジャン＝リュック・ナンシー」, 86-92頁。

研究成果（学会発表）

- ・《Dans la Cité, les hommes ne s'embrassent pas》「都市にて人間（おとこ）は抱擁せず」, 日本フランス語フランス文学会, 2021年度春季大会（オンライン）, ワークショップ4「ジャック・デリダとジャン＝リュック・ナンシー 友愛と共同性」, 2021年5月23日。
- ・《Re-commencement, reprise – de la pensée》, Colloque 《Jean-Luc Nancy : Anastasis de la pensée – Jean-Luc Nancy: Anastasis of Thinking》, organisé par Divya Dwivedi, Jérôme Lèbre, Shaj Mohan, Maël Montévil et François Warin, 22, 23 & 24 janvier 2022. (24 online-Zoom)

研究成果（その他）

- ・翻訳：ジャン＝リュック・ナンシー「『哲学の終焉と思考の課題』」, 『思想』岩波書店, No. 1172, 2021年12月号, 特集「追悼 ジャン＝リュック・ナンシー」, 7-17頁。
- ・翻訳：ジャン＝クレ・マルタン「ジャン＝リュック・ナンシー, 世界の終わり？」(乙幡亮と

の共訳),『思想』岩波書店, No. 1172, 2021年12月号, 特集「追悼 ジャン＝リュック・ナンシー」, 32-35頁。

- 「略年譜」(西山雄二との共編),『思想』岩波書店, No. 1172, 2021年12月号, 特集「追悼 ジャン＝リュック・ナンシー」, 151-159頁。
- 「文献目録」(西山雄二との共編),『思想』岩波書店, No. 1172, 2021年12月号, 特集「追悼 ジャン＝リュック・ナンシー」, (4)-(15)頁。
- 翻訳: ジャン＝リュック・ナンシー「デモソフィア」, オンライン・ジャーナル Philosophy World Democracy, 20 February 2022 <https://www.philosophy-world-democracy.org/articles-1/demosophia-japanese>
- 追悼記事「砕け散った心, その煌めき」,『図書新聞』, 2021年9月18日号(3512号)。
- 書評「ヒッピーになれなかった君(ぼく)たちへ」, ヘレン・S・ペリー『ヒッピーのはじまり』作品社,『図書新聞』, 2021年10月30日号(3517号)。
- 表象文化論学会第15回研究発表集会書評パネル「宮崎裕助『ジャック・デリダ 死後の生を与える』」報告: 柿並良佑, 森脇透青,『REPRE』44号, 2022年3月

教育, 地域連携等の活動

- オンライン番組『クロスレビュー』, 「『操作』について」, 2021年8月25日(水), ゲスト出演。
<https://playsand.work/s/crossreview/extra/>
- インタビュー記事「共に生きるための言語——ニシノマドカ監督に聞く」, SPUTNIK - YIDFF Reader 2021, No. 4, 2021年10月10日。

研究・教育活動に関するコメント

兼子 良久

研究成果(論文)

兼子良久, 「定額料金に対する消費者の価格知覚」, 山形大学大学院社会文化創造研究科社会文化システムコース紀要, 第18号, pp.71-85, 2021年9月.

兼子良久・上田隆穂, 「プライシングの系譜」, マーケティングジャーナル, 第41巻3号, pp.6-17, 2022年1月.

教育, 地域連携等の活動

基盤: 共生のマーケティング(共生を考える)

専門: マーケティング a・b / 統計学基礎 / マーケティング演習

大学院: マーケティング論特論 / 企業経営特別研究

研究・教育活動に関するコメント

許 時嘉

研究成果（学会発表）

〔招待講演〕許時嘉「1920年代亜細亞連盟論在東亞的發展狀況」，文化史研究群講論會，2022年3月25日，中央研究院台湾史研究所（台北市）。

研究成果（その他）

- 日本台湾学会第23回大会学術大会，第1分科会（歴史学）コメンテーター，2021年5月30日，オンライン開催。
- 日本比較文学会 第83回全国大会，コメンテーター，2021年6月12日，オンライン開催。
- 基盤研究（C），2020年04月～2024年03月，1920-1930年代植民地台湾におけるアジア共同体認識の変容，研究代表者。

教育，地域連携等の活動

- 基盤教育：中国語Ⅰ，中国語Ⅱ
- 専門教育：近現代中国文化概論，アジア文化演習，グローバルプロブレマティーク基礎演習 a，中国語作文 a，留学事前演習（後期），卒論演習1，卒論演習2
- 大学院：東アジア近現代文化論特論Ⅰ・Ⅱ，東アジア近現代文化論特別演習，アジア文化特別研究Ⅰ・Ⅱ
- 卒業論文主指導：4名，修士論文主指導：1名

研究・教育活動に関するコメント

清塚 邦彦

研究成果（論文）

清塚邦彦「R・ウォルハイムの画像表象論」『山形社会文化創造研究科社会文化システムコース紀要』18号，9-35頁，2021年9月。

清塚邦彦「K・L・ウォルトンの描写の理論：R・ウォルハイムとの論争を手がかりに」『山形大学人文社会科学部研究年報』19号，17-44頁，2022年3月。

研究成果（その他）

- 東北哲学会 委員
- 科学研究費補助金 基盤研究（C），「画像表象の意味論に関する哲学的研究」（研究代表者，2020年04月～2022年03月）
- 論文査読（『人間生活文化研究』（大妻女子大学））

教育，地域連携等の活動

- （a）担当授業
（基盤教育）

「哲学ってどんなこと? (哲学)」(前期)

(専門教育)

「哲学概論」(前期), 「記号論特殊講義」(後期), 「哲学基礎演習」(前期), 「哲学演習」(前期・後期), 「課題演習(哲学)」(後期), 「人間文化入門総合講義」(後期1回分担当)

卒論指導担当 正7名, 副1名

(デカルトにおける神について, ダニエル・C・デネットにおける心の進化について, 九鬼周造「音楽と文学の混合形式」の検討, ショーペンハウアーに基づく死生観の考察, バークリの「マスターアーギュメント」に対する批判の検討, 人はなぜフィクションに惹かれるのか: 「ごっこ遊び論」から考える, など)

研究・教育活動に関するコメント

源島 穣

研究成果(論文)

源島穣「EU 離脱をめぐる「移民」問題: 論点整理と課題設定」(査読有), 山形大学大学院社会文化創造研究科社会文化システムコース紀要18, 87-113, 2021年10月。

研究成果(学会発表)

源島穣「福祉国家の社会統合機能に注目した移民研究」YU-COE (M) 移民社会における多文化共生論第2回研究会, 2021年7月28日。

源島穣「イギリスの移民受入れ拡大に関する政治学的分析」非国家的政治研究会第3回研究会, 2021年9月11日。

源島穣「イギリスのEU域内の移民受入れをめぐる政治過程: プレア労働党政権期を中心に」日本政治学会2021年度研究大会, 2021年9月25日。

源島穣「外国人材受入れをめぐる地域のレジリエンス強化の試み」YU-COE (M) 移民社会における多文化共生論第16回研究会, 2022年1月26日。

研究成果(その他)

山形大学と交流する会山形県の課題解決研究への支援事業「山形県内の外国人材の定着向上に向けた現状分析」(研究代表者, 2021年10月~2022年03月)

教育, 地域連携等の活動

【担当科目】

- 基盤: 日本国憲法, 基幹科目(共生を考える)
- 専門: 行政学 a・b, 行政学演習, 専門基礎演習, 総合講座 I (分担)
- 卒業論文指導(19名)
- 非常勤: 公共政策基礎理論(東北大学, 分担)

【地域連携等】

- 山形県社会福祉協議会運営委員
- 講演会開催（山形大学人文社会科学部国際学術講演会「山形における少子高齢化社会と多文化共生：結婚移住から労働移住まで」,2022年3月5日）
- 地方政治に関する取材協力（日本農業新聞,2021年5月5日）
- 山形県政に関する取材協力（テレビユー山形,2021年6月22日）
- 山形県政に関する取材協力（テレビユー山形,2021年7月7日）
- 自民党総裁選に関する取材協力（山形テレビ,2021年9月6日）
- 山形県政に関する取材協力（テレビユー山形,2021年9月10日）
- 研究紹介（山形新聞,2021年9月26日）
- 衆院選に関する取材協力（テレビユー山形,2021年10月19日）
- 衆院選特別番組での解説（テレビユー山形,2021年10月31日）
- 衆院選に関する取材協力（テレビユー山形,2021年11月1日）
- 山形県政に関する取材協力（テレビユー山形,2021年11月8日）
- 山形県政に関する取材協力（テレビユー山形,2022年3月16日）
- 山形県政に関する取材協力（テレビユー山形,2022年3月17日）

研究・教育活動に関するコメント

研究では、論文を1本掲載できた。学会報告や研究会報告も実施できた。今後は学会誌への掲載も目指したい。山形の外国人材に関する調査を実施する機会も得た。一方、メインの研究であるイギリスへの現地調査は、covid-19の流行以降実施できていない。今後は感染状況を鑑み、研究費を獲得をしたうえで実施したい。

教育では、特に卒業論文指導に時間を割いた。行政学演習に所属する19名の卒論を指導したが、赤入れを重ねるほど内容が良くなり、指導する側としてもやりがいがあった。

地域連携では、今年度も取材協力を中心に学術的知見の地域への還元を務めた。

小泉 有紀子

研究成果（その他）

（翻訳）ロジャー・クルーズ（2021）, 『「皮肉」と「嫌み」の心理学』小泉有紀子（監訳）風早柊佐（訳）ニュートンプレス。

教育、地域連携等の活動

学会活動

東北英語教育学会 理事

全国英語教育学会機関誌（Annual Review of English Language Education）編集委員

地域連携

山形県英語教育研究会 山形県英語弁論大会審査員長

大学関係

山形大学人文社会科学部バーチャル・オープン・キャンパス教員座談会「学生が望むこと、教員

が願うこと」

山形大学紀要編集委員

教育関係

山形大学教員免許状更新講習「アクティブ・ラーニングと英語科指導」

卒業論文主指導 4名

修士指導 1名

授業：基盤教育：コミュニケーション英語 L, 専門教育：実践英語 ab 英語学演習 b, 大学院：心理言語学特論 心理言語学特別演習

研究・教育活動に関するコメント

合田 陽祐

研究成果（著書）

（共著分担）Alfred Jarry, Oeuvres complètes, Classiques Garnier, tome VI, janvier 2022 (Edition critique).

研究成果（論文）

（査読あり）合田陽祐「世紀末小雑誌からみる前衛の制度化の試み —『プリューム』の「タベ」と若手グループの誕生 —」, Nord-Est (16), 日本フランス語フランス文学会東北支部会報, 2022年3月, 35-50頁。

研究成果（学会発表）

- (1) 合田陽祐「象徴派の「小雑誌」入門にかえて ——1890年代の若い世代の役割を中心に」象徴主義研究会, 於京都大学大学院人間・環境学研究科, 2021年9月25日。
- (2) 合田陽祐「世紀末の文芸生活のメディア化について——『プリューム』誌を中心に」, 日本フランス語フランス文学会東北支部大会, 於弘前大学, 2021年11月27日。

研究成果（その他）

以下の課題研究の成果として論文を1本刊行し, 学会発表を2回行った。その他, 辞書の執筆作業を行った。

- (1) 合田陽祐「文芸誌を介して見る象徴派の小説研究——ジャンル論と集団性の観点から」, 日本学術振興会 科学研究費（基盤研究（C））, 2019年4月 - 2023年3月。
- (2) 森本淳生（代表者, 所属：京都大学大学院）「現代の起点」としてのフランス象徴主義の総合的研究」, 日本学術振興会 科学研究費（基盤研究（B））, 2021年4月 - 2025年3月。

教育, 地域連携等の活動

集中講義：(1) 合田陽祐「「難解作家の」テキストの読み方を学ぶ——アルフレッド・ジャリを事例に」, 神戸大学大学院文学研究科, フランス文学特殊講義, フランス文学特殊研究, 2022

年2月14日 - 2022年2月17日。

(2) 合田陽祐「19世紀文学における女性イメージの変化——「宿命の女」から「男の娘」まで」, 広島修道大学, 2021年11月11日。

出張講義: 合田陽祐「「フランス文学」から「世界文学」へ——グローバル化するフランス語圏文学」, 山形県立新庄北高等学校 2021年7月26日。

学会: 日本フランス語フランス文学会東北支部 運営委員 (総務担当) (2019年6月 - 現在)。

授業担当: (前期) 基盤: フランス語Ⅱ (基盤人間文化・GS), フランス語Ⅱ (地教), フランス語Ⅱ (人間文化・GS) 学部: 留学事前演習 (フランス語), フランス文化演習, 時事フランス語 大学院: フランス文化論特論 (フランス文化論特論Ⅱ)

(後期) 基盤: フランス語Ⅱ (基盤人間文化・GS), フランス語Ⅱ (地教), フランス語Ⅱ (人間文化・GS) 学部: 留学事前演習 (フランス語), フランス文化演習, 時事フランス語 大学院: フランス文化論特別演習

研究・教育活動に関するコメント

2022年度からフランス共和国で実施する国際共同研究のための準備作業を行った。2021年度はコロナ禍のため ZOOM での学会発表, 集中講義や出張講義を複数回行った。コロナ禍ですべての留学派遣と受け入れが一時的に停止した。パリのナンテール大学との交流で, さらに学生の派遣と受け入れが活発になるよう, 新たな条項を盛り込んで協定を更新した。

コーエンズ 久美子

研究成果 (著書)

加藤新太郎・山野目章夫・鈴木龍介『実務に活かす 判例登記法』(2021年4月) 375頁~388頁, 308頁。

国際商取引学会編『国際ビジネス用語辞典』(中央経済社, 2021年4月)

Charles W. Mooney and Kumiko Koens, Japan 1332-1368, Global Financial Collateral (Penelope L. Christophorou, Celeste Boeri Pozo eds, Aug.2021)

研究成果 (論文)

「動産譲渡登記の見直しの方向性 - 企業金融の実態調査の結果から」登記情報713号 8頁~16頁 (2021年4月)

研究成果 (その他)

消費者法情報『現代消費者法』51号82頁~84頁 (2021年6月)

消費者法情報『現代消費者法』54号103頁~105頁 (2022年3月)

教育, 地域連携等の活動

[担当授業] 基盤教育基幹科目 (共生を考える), 会社法1,2, 商法1,2, 商法演習

[地域連携活動] 山形地方最低賃金審議会公益委員, 東北地方社会保険医療協議会山形部会公益

委員

研究・教育活動に関するコメント

企業金融に関する実態調査を踏まえ、担保法制についての課題、今後の検討の方向性について、引き続き論文の執筆を進め、査読を経て最終原稿に取り組んだ。その成果の一部として、論文を登記情報に寄稿した（前年度に日本登記法学会において報告したもの）。

教育面では、恒例の愛知大学、立命館大学との合同ゼミを zoom により実施した。

小林 正法

研究成果（著書）

小林正法・小國龍治・大竹恵子 (2021). 性格とパーソナリティ 堀毛一也・金子迪大（監訳）
ポジティブ心理学研究の転換点 (pp. 270-297) 福村出版

小林正法・大竹恵子 (2021). ポジティブ心理学における意味と成長：より完全な理解に向けて
堀毛一也・金子迪大（監訳）ポジティブ心理学研究の転換点 (pp. 419-431) 福村出版

研究成果（論文）

Matsumoto, N., Watson, L. A., Fujino, M., Ito, Y., & Kobayashi, M. (2022). Subjective judgments on direct and generative retrieval of autobiographical memory: The role of interoceptive sensibility and emotion. *Memory & Cognition* (査読あり)

伊藤友一・松本昇・小林正法・西山慧・三好清文・村山航・川口潤 (2022) エピソード科学：記憶研究の新たな視点 *認知心理学研究*, 20, 43-56. (査読なし)

研究成果（学会発表）

小林正法 (2022, 3月) テクノロジーとエピソード記憶, 第19回日本認知心理学会大会, オンライン開催

大杉尚之・小林正法 (2021, 10月). “ヒト”のころをスマホのブラウザで測ってみよう!, 2021年度 日本基礎心理学会公開シンポジウム, オンライン開催

小林正法・国里愛彦・大杉尚之・西山慧・紀ノ定保礼・遠山朝子 (2021). はじめてのオンライン心理学実験・調査: jsPsych と lab.js を用いた作成, 第85回日本心理学会大会, オンライン開催

教育、地域連携等の活動

○卒業研究（5名）

援助行動とソーシャルキャピタルに関する研究

シャードンフロイデとコロナウイルス予防に関する研究

Memory discrimination と抑うつに関する研究

Cognitive offloading に関する研究

夢の色に関する研究

○担当科目

データ処理演習, 行動科学概論, 行動科学基礎演習, 行動科学演習, 行動科学特殊講義, 課題演習(地域情報), 情報処理実習, 心理学特殊実験, 認知情報科学基礎実習, 心理科学特論B, 心理科学特別演習B

研究・教育活動に関するコメント

今野 健一

研究成果(著書)

1) 日本教育法学会編『コンメンタール教育基本法』(共著)(学陽書房, 2021.10.26) p.134-142, 412-428.

研究成果(論文)

- 1) 「教育裁判のなかの校則裁判—頭髮黒染め強要国賠訴訟・大阪地裁判決の検討を中心に—」(単著), 『季刊教育法』210号(2021.9.25) pp.88-96.
- 2) 「フランスにおける学校のライシテとイスラーム」(単著), 辻村みよ子・責任編集『憲法研究』9号(信山社, 2021.11.3) pp.85-101.

研究成果(その他)

- 1) 『教育小六法(2022年版)』〔勝野正章 = 窪田眞二 = 今野健一 = 中嶋哲彦 = 世取山洋介・編集委員〕(学陽書房, 2022.1.28)〈編集委員として編集・執筆〉

教育, 地域連携等の活動

・教育

専門科目: 憲法3, 憲法4, 憲法演習II, 総合講座II

基盤科目: 日本国憲法, 基幹科目(共生を考える), 教養科目(法学)

・地域連携等

山形市情報公開・個人情報保護審査会委員, 山形県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員, 山形県広域環境事務組合情報公開・個人情報保護審査会委員

研究・教育活動に関するコメント

研究面では, 分担執筆した, 日本教育法学会の企画による教育基本法のコンメンタールが刊行されたほか, いわゆる頭髮黒染め強要国賠訴訟の評釈を中心に教育裁判(特に校則裁判)の意義と動向を押さえる論考, さらに, フランスにおける共和主義的学校法制とイスラームとの緊張関係の現況を検討する論考を発表した。また, 引き続き, 教育法規集の編集委員として, 編集・執筆作業を行った。

教育面では, COVID-19の影響を引き続き受けるなか, オンライン授業の準備, 毎回のコメント管理, 期末試験・レポートの実施を含めて, 通常よりもはるかに多くの労力を要した。専門演習では, 例年どおり, 4年生の卒業研究論文(ゼミ論)の指導を継続的に行い, 最終的に論文集

として取りまとめた。

坂井 正人

研究成果 (論文)

「ナスカの地上絵をめぐる景観と土器の儀礼的破壊」2022年3月『アンデス文明ハンドブック』
(関雄二監修, 山本睦・松本雄一編) 臨川書店, pp.180-195, 坂井正人.

「ナスカの地上絵の学術調査と保護のあり方」2022年3月『アンデス文明ハンドブック』(関雄二監修, 山本睦・松本雄一編) 臨川書店, pp.326-334, 坂井正人.

「考古学的カテゴリーの構造—ナスカ1様式の土器形式を事例として—」 2021年10月
日本情報考古学会講演論文集, 24:64-69, 時津裕子・坂井正人.

「考古学者の分類特性—ナスカ1様式の土器形式を事例として—」 2021年10月, 『日本情報考古学会講演論文集』, 24:70-74 時津裕子・坂井正人.

Tres Palos Revisited; Understanding the Middle Horizon in the Rio Grande de Nasca Drainage. 2022年1月, Latin American Antiquity 1-7. Yuichi Matsumoto, Jorge Olano, Masato Sakai.

研究成果 (学会発表)

¿En qué punto se encuentra el conocimiento sobre los geoglifos de las Pampas de Nasca?: Resultados de la investigación 2009-2020, Instituto Nasca, Universidad de Yamagata, Japón, Seminario Extracurricular PEA (Programa de Estudios Andinos), Pontificia Universidad Católica del Perú, 2021年11月20日 .
Masato Sakai

「ペルー南海岸, トレス・パロス I・II 遺跡の編年的位置づけに関する考察」, 2021年12月4日, 『古代アメリカ学会第26回研究大会』松本雄一, ホルヘ・オラーノ・カナールス, 坂井正人.

教育, 地域連携等の活動

〈教育〉

(基盤) 文化人類学入門 (文化論), 文化人類学と SDGs (文化論)

(学部) 文化人類学基礎演習 a, アンデス考古学特殊講義 b, 文化人類学演習 b, アンデス考古学概論 b, 課題演習 (文化人類学), 教職大学院「教材開発のための先進研究」人文科学系 (世界遺産領域)

(大学院) プロジェクト演習 VI (日本語), プロジェクト演習 VI (スペイン語) (2021)

〈地域連携〉

エクステンションぶらす「社会で生きるための人類学的視点 ——アンデスの事例を現代に活かす」(山形大学エクステンションサービス推進本部) 3回 [2月3日 (木), 2月10日 (木), 2月17日 (木)]

研究・教育活動に関するコメント

人工知能を利用した世界遺産ナスカの地上絵研究〔基盤研究 (A)〕に取り組んでいる。この研究を推進するために、米国 IBM ワトソン研究所と連携している。

佐藤 真海

研究成果

教育、地域連携等の活動

【担当授業】

基盤共通教育科目「史料でたどる古代の日本（歴史学）」（後期）

歴史学基礎演習 b（後期・共担）

【地域連携等活動】

山形文化遺産防災ネットワーク世話人

研究・教育活動に関するコメント

2021年10月に着任。研究においては、着任以前より取り組む研究の継続に努めた。年度内の成果公表には至らなかったが、次年度に公表の見通しを得ている。教育活動では、基盤共通教育科目と歴史学基礎演習 b を担当した。地域連携等では、地域の文化遺産を災害から守り次世代に伝えるべく活動する、山形文化遺産防災ネットワークの世話人に就いた。次年度は、担当の講義科目とのコラボを図り、学生とともに地域の歴史や文化の継承について考える場をもちたいと思っている。

穴戸 聖

研究成果（著書）

私的独占における排除概念の再構成（商事法務）2022年3月刊行

研究成果（論文）

1. 互換品の不当な抱き合わせ販売が認定された事例（新・判例解説 Watch（経済法）No.79）2021, 12
2. 総合格闘技団体による格闘家に対する独占力及び 買い手独占力の維持・拡大が問題とされた事例（国際ビジネス法エグゼクティブ・サマリー（IBLES）No.50）2021, 7
3. マージンスクイズ及び取引拒絶が問題とされた EU の新事例— Slovak Telekom 事件欧州司法裁判所判決—（国際ビジネス法エグゼクティブ・サマリー（IBLES）No.52）2021, 10

研究成果（学会発表）

単独かつ直接の取引拒絶の規制根拠と課題（東京経済法研究会：2021/04/17）

教育、地域連携等の活動

2021年10月着任のため、経済法1及び2を2021年度後期に半期集中講義として担当。法務実践演習 a（消費者法務実践）を共同担当。

研究・教育活動に関するコメント

下平 裕之

研究成果 (学会発表)

下平裕之「地域における循環型社会の課題と今後」地域活性学会東日本大震災10年特別大会, 2021年5月23日.

下平裕之「震災10年と「人間の復興」」経済学史学会東北部会第42回例会, 2021年5月29日.

下平裕之「経済学コーパス構築の方向性についてーJ.S. ミル『経済学原理』を事例として」第6回ケインズ学会東北部会, 2022年2月13日.

教育, 地域連携等の活動

• 教育活動

山形大学における担当授業:

[学部] 経済思想, 経済学史, 経済学史演習, 公共政策・地域課題実践演習 B 3

[大学院] イギリス経済学史特論・特別研究

[基盤教育] 中山間地域の暮らしを考え, 発信しよう (応用と学際)

非常勤: 羽陽短期大学 (経済学), 東北文教大学 (地域と観光), 東北芸術工科大学 (クリエイティブ経済論)

模擬講義: 寒河江高校「まちづくり・地域づくりの考え方」(2021年7月6日・オンライン), 夢ナビ講義ビデオ「地域の宝で地域を元気に」

その他: 基盤共通教育基幹科目部門長, 地域創生教育センター長

• 地域連携活動

山形財務事務所財務モニター

山形県職業能力開発審議会会長

山形県公共事業評価監視委員会委員

上山市振興審議会委員

長井市レインボープラン活動評価分析 (市民アンケート担当)

山形学企画委員 (山形県生涯学習センター)

研究・教育活動に関するコメント

学会発表においては, 東日本大震災から10年の節目の年に当たり経済学史・地域活性化の2つの研究テーマに関してそれぞれ震災関連の報告を行った。教育面においては, オンラインにより全国に発信される「夢ナビ講義ビデオ」での模擬講義を担当し, 大学からの情報発信に一定の役割を果たすことができた。

鈴木 亨

研究成果 (論文)

鈴木亨(2022)「動詞 think の自他交替についてー前置詞脱落の意味論」島悦郎・富澤直人・小川芳樹・土橋善仁・佐藤陽介・ルプシャ・コルネリア (編)『ことばの諸相ー現在と未来をつなぐ』272-282, 開拓社.

教育、地域連携等の活動

担当授業：総合英語，コミュニケーション英語，英語学特殊講義，日英対照言語学講義，教職実践演習（英語）など

模擬講義：

- (1) 磐城桜ヶ丘高等学校「ビートルズとBLM - Blackbird を聴いて英語を学ぶ」(2021年7月，オンライン)
- (2) 泉館山高等学校「ビートルズとBLM - Blackbird を聴いて英語を学ぶ」(2021年10月，オンライン)

研究・教育活動に関するコメント

研究面では，英語の逸脱的・創造的表現の発現をめぐる文法研究を進めた。教育面では，複数の授業で事前に課題を提出させ，それへのフィードバックを授業内容に取り入れる形式をとるようにした。

砂田 洋志

研究成果（論文）

砂田洋志，「二変量 Hawkes 過程の理論と実証 - 金先物市場とプラチナ先物市場への応用 -」，山形大学紀要（社会科学），第52巻第1・2号，pp.33-45, 2022年2月。

教育、地域連携等の活動

◎担当授業

計量経済学1・2，統計学1・2，演習（学部），統計学基礎（ジェネリックスキル科目）

◎地域連携など

○委員長・議長

- 1) 山形県行政支出点検・行政改革推進委員会の委員長
- 2) 山形県入札監視委員会の委員長
- 3) 天童市振興審議会の委員長
- 4) 山形県地域公共交通活性化協議会の座長

○委員

- 5) 国土交通省東北地方整備局の入札監視委員会（副部会長）
- 6) 山形労働局山形地方労働審議会委員
- 7) 山形県統計利用アドバイザー
- 8) 山形県政府調達苦情検討委員会
- 9) 山形県市町村職員共済組合と同互助会の学識経験監事
- 10) 西村山地域広域連携協議会
- 11) 山形大学生協の監事

○客員研究員

- 12) 慶應義塾大学産業研究所の客員研究員

研究・教育活動に関するコメント

- 地域連携活動として、11種類の兼業（委員長・座長は合わせて4つ）を担当した。11種類の兼業を引き受けながらも、諸般の事情により経済・マネジメントコースのコース代表を引き受けることとなった。そのために、とても忙しい1年間となった。
- 主研究として、二変量 Hawkes 過程を用いて金先物市場とプラチナ先物市場における取引データの分析を行うことができた。この研究を基礎にして、科研費で購入した注文データの分析を進めている。
- 卒業研究の論文を執筆する4名の学生を指導した。

高倉 新喜

研究成果（論文）

- 高倉新喜「被告人の著名押印がない控訴申立書による控訴申立ての協力」ジュリスト1557号（令和2年度重要判例解説）（2021年）140-141頁
- 高倉新喜「任意捜査における留め置きと現行犯人逮捕に伴う無令状の搜索差押え」新・判例解説 Watch28号（2021年）225-228頁

研究成果（学会発表）

- 2022年2月19日（土）東北大学刑事法判例研究会（オンライン）で判例報告
最三小判令和3・9・7裁判所時報1775号3頁

教育、地域連携等の活動

学外委員会

- 山形県精神医療審査会委員
- 山形県弁護士会綱紀委員会委員
- 山形地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員
- 山形県教職員法令遵守委員会委員長
- 山形地方裁判所委員会委員

学内委員会

- 山形大学人文社会科学部入学試験委員会議長
- 山形大学入学試験実施会議委員
- 山形大学入学共通テスト小白川地区試験場会議副議長
- 山形大学医学部附属病院医薬品等受託研究審査委員会委員
- 山形大学臨床研究審査委員会委員

研究・教育活動に関するコメント

研究活動においては、判例解説を2本発表した。

教育活動においては、新型コロナウイルス禍のため様々な制約があったが、「専門基礎演習」（前期）ではオンラインにより学生にリーガル・リサーチを修得させた。「刑事法基礎2」（前期）で

はオンラインにより学生に刑事訴訟法の基礎的事項を修得させた。「刑事訴訟法1・2」(後期)では、対面とオンラインの併用により、実際の刑事手続で起こる具体的問題について学生に考えさせた。「法と裁判」(後期)では、対面とオンラインの併用により、法と裁判の全体像と具体的なイメージを学生に把握させた。「刑事訴訟法演習」(前期・後期)では対面とオンラインの併用により介護殺人事案について学生に考えさせ、卒業論文作成の学生指導をした。

2021年10月12日に山形大学公開講座で「2020年代の日本社会を展望する－暮らしの安全はどうなるの?」というテーマで講義をした。

2022年3月2日に「人文社会科学部優秀社会貢献者賞」を受賞した。

高橋 真彦

研究成果(論文)

Takahashi, Masahiko. 2021. Some notes on the scope properties of nominative objects in Japanese. In *The size of things I: Structure building*, ed by Sabine Laszakovits and Zheng Shen, 153-171. Berlin: Language Science Press.

Takahashi, Masahiko. 2021. Reconsidering the optionality of raising in Japanese exceptional Case-marking constructions. *Syntax* 24: 224-262.

教育、地域連携等の活動

授業：総合英語，実践英語 e，実践英語 f，英作文（中級），生成文法論特論，生成文法論特別演習

研究・教育活動に関するコメント

竹内 麻貴

研究成果

教育、地域連携等の活動

研究・教育活動に関するコメント

産休育休を取得していたためいずれの成果もなし。

溜川 健一

研究成果(論文)

溜川健一(2021)「量的金融緩和政策が金融機関貸出に与える影響—VAR モデルによる分析—」*経済政策ジャーナル*, 2021年18巻2号, pp.1-20.

研究成果(学会発表)

日本経済政策学会第78回全国大会にて、単著「量的金融緩和政策が金融機関貸出に与える影響—

VAR モデルによる分析―」を報告した。

教育、地域連携等の活動

マクロ経済学1・2・3, 統計学基礎, 基盤共通教育科目, 演習, キャリアガイダンスを担当。

研究・教育活動に関するコメント

時任 翔平

研究成果 (論文)

[1] Maeno, K., Tokito, S., Kagawa, S., “CO2 Mitigation Through Global Supply Chain Restructuring”, *Energy Economics*, Elsevier, vol. 105, 105768, 2022, <https://doi.org/10.1016/j.eneco.2021.105768>

[2] Tokito, S., Nagashima, F., Hanaka, T., “Changes in Domestic Value Added from Exports: A Structural Decomposition Approach”, SSRN 4057270, 2022. <https://dx.doi.org/10.2139/ssrn.4057270>

研究成果 (学会発表)

[1] Maeno, S., Tokito, S., K., Kagawa, “CO2 Mitigation through Global Supply Chain Restructuring” the IIOA Online Development Programme 2021, Online meeting, 6-7 July, 2021.

[2] Nagashima, F., Tokito, S., Hanaka, T., “Hub Industries in the Global Supply Chain Networks to Reduce Embodied Emissions, oral presentation”, Networks 2021 A joint sunbelt & netsci conference, Online meeting, 6-11 July, 2021.

[3] 時任翔平, 永島史弥, 土中哲秀, 「付加価値輸出の構造分解分析」, 『第32回環太平洋産業連関分析学会』, 東京, 2021年10月30日-10月31日。

[4] 土中哲秀, 時任翔平, 永島史弥, 「サプライチェーンにおける位置を考慮した環境負荷分析」, 『第32回環太平洋産業連関分析学会』, 東京, 2021年10月30日-10月31日。

[5] 永島史弥, 時任翔平, 土中哲秀, 「中間財輸出に伴うライフサイクル CO2排出量の推定」, 『第17回日本LCA学会研究発表会』, オンライン, 2022年3月2日-3月4日。

研究成果 (その他)

科研費:

[1] 時任翔平, 「グローバルサプライチェーンでの環境負荷抑制に向けた国際産業連関構造の分解と可視化」(JSPS_21K13277), 若手研究, 日本学術振興会, 2021年度~2025年度, 直接経費360万円, 間接経費108万円

[2] 時任翔平, 「国際産業連関分析を用いた輸出財の生産・CO₂排出構造の解明と時系列分析を通じた持続可能な輸出政策の提言」, エスペック環境研究奨励賞, 公益信託エスペック地球環境研究・技術基金, 2021年度, 直接経費49万円

教育、地域連携等の活動

基盤: 国際貿易 (経済学)

専門：専門基礎演習，総合講座Ⅲ，国際経済学 a，国際経済学 b，経済数学 a，国際経済学演習
大学院：国際経済論特論，国際経済論特別演習

研究・教育活動に関するコメント

研究：論文が査読付き国際誌にアクセプトされた。科研費を取ることができた。新しいプロジェクトが立ち上がった。実りの多い年だった。

教育：指導学生の研究の幅が広がった。

富澤 直人

研究成果（著書）

島越郎・富澤直人・小川芳樹・土橋善仁・佐藤陽介・ルプシャ コルネリア（編）（2022/ 3/24）『ことばの様相—現在と未来をつなぐ—』開拓社：東京．

研究成果（論文）

富澤直人（2022/ 3/24）「複雑型内包形容詞の統語派生」，島越郎・富澤直人・小川芳樹・土橋善仁・佐藤陽介・ルプシャ コルネリア（編）『ことばの様相—現在と未来をつなぐ—』325-335. 開拓社：東京．

教育，地域連携等の活動

学部：英語学概論，英語学特殊講義 b，e-learning

大学院：英語学特論，英語学特別演習，現代外国語（英語）Ⅱ

基盤：英語（総合英語），言語は臓器である（言語学）

研究・教育活動に関するコメント

述語 NP の移動に関する研究（科研費1年目）を中心に研究を行った。

中澤 信幸

研究成果（論文）

- 研究ノート 山形の日台交流の現状と課題，『山形大学人文社会科学部研究年報』19，pp.105-114,2022年3月

研究成果（学会発表）

- 王育徳の閩音系音韻体系再考 —『閩音系研究』第3章一，天理台湾学会第30回研究大会，2021年7月3日

教育，地域連携等の活動

〔担当授業〕

- 学部専門科目：日本語 a，日本語学概論，日本語学基礎演習 b，日本語学特殊講義 b，日本語

学演習 a (前期), 日本語学演習 a (後期), 課題演習 (日本語教育), 日本語文化論 (日本語入門)

- 大学院科目: 日本語学特論, 日本語史特論Ⅱ, 日本語学特別演習
- 基盤教育科目: 山形の方言と日本語 (山形から考える)

[卒業論文]

- 漫才におけるコミュニケーションの方法について
- 現代における過剰敬語の例と分類
- 掛詞の役割と変遷
- 『万葉集』における仮名遣いの用法の研究
- フィクション作品における女性キャラクターの言葉遣いの変遷について
- 童謡のオノマトベに関する日英対照

[修士論文]

- 欧文直訳体における漢語動詞の意味分類と日中対照
- 中等教育における日本語教科書の文法事項に関する対照研究 —中国とその他諸地域について
- 日本語オノマトベの中国語への翻訳表現 —小説を中心に—

[教育活動]

- コースを超えた学びについて考える, 山形大学人文社会科学部主催 FD 研修会, 2022年2月8日 (目標評価委員会教育方法検討部会委員として企画および司会進行を担当した)
- 国内大学オンライン会議2022 長引く COVID-19禍における異文化交流の展望, 山形大学人文社会科学部国際交流委員会主催 国内大学オンライン会議, 2022年2月21日 (主催者として開催に携わる)
- 海外提携校オンラインサミット2022 長引く COVID-19禍における異文化交流のあり方, 2022年3月7日 (主催者として開催に携わる)

[地域連携]

- 2021年に急浮上した「台湾」の存在感 海峽有事に日米はどう備えるか, 一般社団法人日台政策研究所第8回セミナー, 山形県生涯学習センター 遊学館, 2021年6月19日 (主催者として開催に携わる)
- 山形弁を商機に! ~薄れる文化を次世代へ残す~, YTS 山形テレビ「提言の広場」, 2021年10月9日・16日
- 宋美齡の生涯 ~蒋介石夫人としての活動から晩年まで~, 一般社団法人日台政策研究所第9回セミナー, 京都アカデミアフォーラム in 丸の内, 2021年12月18日 (主催者として開催に携わる)
- 山形における少子高齢化社会と多文化共生 ~結婚移住から労働移住まで~, 山形大学人文社会科学部国際学術講演会, 2022年3月5日 (主催者として企画および司会進行を担当した)

研究・教育活動に関するコメント

コロナウイルスの影響は続いたものの, オンラインで研究発表を行うなど活動を続けることができた。

一方, 教育・地域貢献では, オンラインおよびハイブリッド方式による講演会等を活発に行った。

前年度に引き続いて「国内大学オンライン会議」「海外提携校オンラインサミット」を開催した他、山形における多文化共生をテーマとした国際学術講演会も企画した。一般社団法人日台政策研究所でも、2度にわたってセミナーを開催した。

中島 宏

研究成果（著書）

- ①志田陽子・榎澤幸広・中島宏・石川裕一郎編『映画で学ぶ憲法Ⅱ』（2021年6月，法律文化社），
- ②ドミニク・ルソー（山元一監訳）『憲法とラディカルな民主主義—「代表民主制」の限界を問う』（2021年9月，日本評論社），
- ③横大道聡ほか編『グローバル化のなかで考える憲法』（2021年12月，弘文堂）

教育，地域連携等の活動

【教育】 1）基盤：映画で考える憲法，日本国憲法，2）専門：憲法1，憲法2，憲法演習1
【地域連携】 1）審議会：①山形市個人情報保護制度運営審議会（副会長），②天童市情報公開・個人情報保護審査会，③山形県後期高齢者医療広域連合個人情報保護制度運営審議会，2）出張講義：7月21日長井高校出張講義（オンライン），8月21日オープンキャンパス模擬講義（オンライン）

研究・教育活動に関するコメント

3年連続での入試委員となり，コロナの影響もあって疲弊した。

中村 篤志

研究成果（論文）

【著書・分担執筆】

中村篤志「駅弁の守人：モンゴル国ハラチン集団の歴史と記憶」李曉東・李正吉編著『北東アジアにおける近代的空間：その形成と影響』明石書店 2022年3月，pp.101-121

研究成果（その他）

【学界展望】

中村篤志「2020年の歴史学界——回顧と展望——：内陸アジア2」『史学雑誌』130(5)，2021年5月，pp.265-270

教育，地域連携等の活動

【講演】

中村篤志「山形大学とモンゴル協定校のこれから：理想的人材環流に向けた取り組み」山形大学モンゴル同窓会設立総会，2022年3月18日，オンライン開催

【講演会企画】

滝口良講師「ウランバートルを囲む都市問題：住まいの歴史文化的解読を通じて」の企画・運営・

司会 (人文社会科学部国際交流委員会, YU-COE 移民社会における多文化共生論研究会), 2021年12月21日

【出張講義】

矢板東高校・山形大学出張講義・講師, 2021年10月29日

【オープンキャンパス模擬授業】

人文社会科学部オープンキャンパスオンライン模擬授業「清統治下モンゴル社会の「流動性」をめぐって」講師, 2021年8月21日

【賞罰】

令和3年度人文社会科学部優秀社会貢献者賞受賞 (2022年3月2日)

【その他】

- 学部生卒論主査2名・副査8名, 大学院修論主査1名, 副査1名

研究・教育活動に関するコメント

- 学部より優秀社会貢献者賞を頂いた。もとより, この受賞は私に機会を与え, サポートなどで尽力して頂いた皆様のお陰である。ここに謝意を表したい。
- 研究面では, 新しい科研費 (基盤C「清代モンゴルにおける交通路の発展とその歴史的意義」) がスタートした。海外調査・国内調査が充分できないため, 今までの成果の取りまとめ, 研究史や問題の整理から始めている。
- 教育面では, オンラインやデジタルツールを活用し, 複数教員でおこなう新たな授業, 海外とオンラインでつなぐ授業などの開発に取り組んでいる。
- その他, 学部の国際交流委員, コース将来計画委員などを務めた。

西岡 正樹

研究成果 (著書)

金澤真理, 永井善之, 西岡正樹 (分担執筆) 『判例回顧と展望 2020』(刑法) 日本評論社 (2021年5月)

教育, 地域連携等の活動

教育活動について, 総合講座Ⅱ, 刑事法基礎1, 刑法1, 刑法2, 刑法3, 刑法4, 刑法演習の授業を, 基盤共通教育「キャリア形成とワークライフバランス (山形から考える)」にて講師を担当。地域連携等活動について, 高大連携として, 出張講義「茨城県立日立北高等学校」(オンライン) (2021年8月)にて講師を担当。学外委員として, 山形地方裁判所委員会委員, 山形市国民健康保険運営協議会委員, 山形市公設地方卸売市場取引委員会委員長等を担当。

研究・教育活動に関するコメント

研究活動について, 科学研究費補助金 (基盤研究 (C)) による研究を継続したが, コロナ禍により学内業務対応に相当の時間を取られ, 十分な研究成果を得ることができなかった。教育活動について, コロナ禍での対応を迫られたが, 昨年度の授業評価等を踏まえつつ, 特に学生の理解が不十分であった点について解りやすい授業実践に努めた。

洪 慈乙

研究成果

教育、地域連携等の活動

[学部] 会計学1・2, 財務会計b・a, 会計学演習, 専門基礎演習

[基盤教育] 企業会計入門

[大学院] 比較会計学特別演習

[地域連携等] 山形大学エクステンションぷらす公開講座「基礎から学ぶ会計学—簿記・会計未経験者入門—」(2021年12月8日・15日・22日)

研究・教育活動に関するコメント

本多 薫

研究成果(論文)

- 1) Kaoru Honda: Effects of the Use of a Widescreen Display on Information Retrieval, Proceedings of the 21st Congress of the International Ergonomics Association (IEA 2021), Springer, Volume II, pp.736-741, 2021.6
- 2) 大杉尚之, 本多薫, 山本陽史, 小林正法: 高大連携授業を通じた探究活動の相互連携の試み—山形大学と米沢興譲館高等学校を事例として—, 山形大学大学院社会文化創造研究科社会文化システムコース紀要, 第18号, pp.37-50, 2021.9
- 3) 本多薫, 門間政亮: 可視領域解析を用いたナスカ台地におけるラインセンターの配置に関する検討, 山形大学人文社会科学部研究年報, 第19号, pp.1-15, 2022.3

研究成果(学会発表)

- 1) 門間政亮, 本多薫: モニター画面における学習情報の表示位置と画面サイズの検討: 検索時間, 視線移動, 心拍数等を指標として, 日本教育工学会2021年秋季全国大会(第39回大会), オンライン開催, P75-76, 2021年10月16日

教育、地域連携等の活動

教育:

授業:(学部) 人間情報科学概論, 人間情報科学特殊講義, 人間文化入門総合講義, 人間情報科学基礎演習, 人間情報科学演習, 情報処理実習(オムニバス), 認知情報科学基礎演習(オムニバス), 心理学特殊実験(オムニバス), データ処理演習, 課題演習(地域情報);(大学院) 人間情報科学特論, 人間情報科学特別演習

卒業研究の指導(正指導教員として指導した卒業論文):

- (a) IAT,GNAT を用いた色彩の潜在的印象評価の補足と検証
- (b) SNS における媒体の違いが情動の共有に与える影響
- (c) 紙と電子的教材の違いがテキストリーディングに及ぼす影響—単一ページと見開きの比較

を通して—

(d) 精神疲労時に取る休憩方法の違いが疲労回復に及ぼす影響
地域貢献活動等：

- (a) 日本人間工学会 理事・東北支部長, 代議員
- (b) 日本人間工学会東北支部運営委員会 委員
- (c) 土木学会 地下空間研究委員会心理小委員会 委員
- (d) その他, 公的資格検定試験の委員 など

研究・教育活動に関するコメント

令和3年度は, 科学研究費補助金(代表)の「学習者の疲労, 負担とヒューマン・エラーの視点からの最適な画面設計の提案」の研究を進め, その成果を国際学会, 全国学会で報告した。また, ナスカの地上絵研究を進め, 成果の一部を研究年報で報告した。教育としては, 情報科学関連の講義と演習, PBL, ジェネリックスキル科目を担当するとともに, 卒業研究の指導を行った。また, 大学院社会文化創造研究科の授業を行った。

本多 広樹

研究成果(論文)

本多広樹(2022): 充電インフラ整備ビジョンを踏まえたEV用充電器普及の実態—山形県を事例として—。山形大学人文社会科学部研究年報, 19, 71-86.

研究成果(学会発表)

本多広樹(2021): 普及の進展からみたEV・PHVタウンの現状。2021年度東北地理学会春季学術大会(オンライン)

本多広樹(2021): 新潟県柏崎市における次世代自動車の活用—地域発の活用方法に着目して—。日本地理学会2021年秋季学術大会(オンライン)

研究成果(その他)

科学研究費助成事業(若手研究)(2021年4月~2024年3月)

【学会・委員会】

東北地理学会編集委員会

教育, 地域連携等の活動

【教育】

担当授業:(学部)地域政策論1,2, 地域政策論演習, 専門基礎演習, 総合講座I(第8,9回), 社会科学英語演習, 基盤共通教育科目基幹科目「地域の人間活動を考える(人間を考える)」, 卒業論文(6名)

(大学院) 地域政策学特論I, 地域政策学特別演習

【地域連携等】

2021年5月 うつのみや市政研究センター 3229（身につく）勉強会 講師

2021年6月～ 令和3年度新庄市デジタル化推進事業（市役所職員対象のワークショップ講師，
学術相談ほか）

研究・教育活動に関するコメント

2021年度は新たな活動に関わる機会に恵まれた。2022年度は自身の研究に加え，これらの活動にも貢献したい。

松本 剛

研究成果（著書）

1. 2022年1月／設楽博己編著『遺跡から調べよう！③古墳時代』童心社，pp.／タイトル「シカン遺跡（ペルー）」（コラム 世界の王墓）／著者：松本 剛

研究成果（論文）

1. 2021年12月／『古代アメリカ』第24号，pp.51-75／論文タイトル「パレテアダ土器とはなにか—近年の発掘調査および遺物分析の結果から—」／著者：松本 剛，丸子 真祥，ガブリエル・ビジェガス，ガブリエラ・デ・ロス・リオス

研究成果（学会発表）

1. 2021年 4 月15日 @zoom 開催 / The 86th Annual Meeting of the Society for American Archaeology / 発表タイトル：「The Mochicas under the Lambayeque rule」（口頭発表） / 発表者：Go Matsumoto
2. 2021年 8 月17日 @zoom 開催 / VIII Congreso Nacional de Arqueología / 発表タイトル：「Los Metales de la Gran Plaza: Análisis e interpretación preliminar de los objetos recuperados en el marco del PIA Complejo Lambayeque」（口頭発表） / 発表者：Jean Pool Nieves Cordova, Go Matsumoto, Gabriela De Los Ríos Farfán
3. 2021年11月 6 日 @ 在日ペルー大使館 / 希有の会 研究懇親会 / 発表タイトル：「Una nueva visión de la Cultura Lambayeque sobre la base de los hallazgos de la Gran Plaza, Complejo Arqueológico Sicán シカン遺跡大広場での調査がもたらした新しいランバイエケ文化像」（口頭発表） / 発表者：松本 剛
4. 2021年12月 4 日 @zoom 開催 / 古代アメリカ学会第26回研究大会 / 発表タイトル：「土器の儀礼的殺害：シカン遺跡大広場における饗宴跡から」（口頭発表） / 発表者：松本 剛，ガブリエラ・デ・ロス・リオス，ガブリエル・ビジェガス
5. 2021年12月 4 日 @zoom 開催 / 古代アメリカ学会第26回研究大会 / 発表タイトル：「航空古写真による地形と遺構の復元：ペルー北部ヘケテベケ川流域を中心に」（ポスター） / 発表者：鶴見 英成，大谷 博則，松本 剛，渡部 森哉，山本 睦
6. 2022年 1 月 9 日 @ 岡山コンベンションセンター / 「出ユーラシアの総合的人類史学：文明創出メカニズムの解明 第6回 全体会議「文明形成とコンフリクト / セッション4：儀礼セン

ター・モニュメントとコンフリクト」／発表タイトル：「モニュメントと暴力」(口頭発表)／
発表者：松本 剛

研究成果 (その他)

1. 科学研究費補助金 (基盤研究 B) 「モチエとシカンを繋ぐ鍵ーワカ・ファチヨ遺跡の発掘：複合的社会的再建プロセスの研究」(研究代表者：松本剛) (研究期間：2019年4月～継続中)
2. 科学研究費補助金 (新学術領域研究／研究領域提案型／公募研究) 「シカン遺跡大広場の発掘と景観分析」(研究代表者：松本剛) (研究期間：2020年4月～資金繰越により継続中)

教育、地域連携等の活動

1. 担当授業：基盤教育期間科目 (人間を考える) 「人類とはなにか」, 文化人類学概論 a, アンデス考古学基礎演習 a, 文化人類学特殊講義 b, アンデス考古学演習 b
2. 出前授業: 2021年5月28日 @ 福島県立磐城高等学校 (zoom 開催) / 「自分の当たり前を疑ってみる」

研究・教育活動に関するコメント

研究発表を論文に繋げていく努力が足りないと感じます。次年度も研究に教育に励みたいと思います。

丸山 政己

研究成果 (論文)

丸山政己「COVID-19は平和に対する脅威ではないのか—国連安全保障理事会の可能性—」『国際法外交雑誌』第120巻第1・2号, 2021年, 63-74頁。

教育、地域連携等の活動

(担当科目) 国際法1・2, 国際組織法, 国際法演習, GP 基礎演習 d, 総合講座 II (総合法律, 世話人), 安達峰一郎について考える (法学)

(学内委員) ①大学院社会文化システムコース入試実施部会員, ②人文社会科学部公開講座実施委員, ③ Fusuma Language Lounge 運営委員会委員

その他に安達峰一郎研究資料室の窓口教員を担当

(外部委員) ①山形地方最低賃金審議会公益委員, ②国際法学会・国際関係法教育委員会委員

研究・教育活動に関するコメント

自身がコロナ禍の影響を大きく受けながらも、自分のこれまでの研究分野におけるコロナ禍の影響を客観的に分析して論文にできたのは、地味ではあるがとても大きな成果だったと考えている。学内委員①は新研究科ということもあって、これまた地味に負担の大きい業務だった。

森岡 卓司

研究成果（著書）

【共著】宇野田尚哉・坪井秀人編『対抗文化史 冷戦期日本の表現と運動』大阪大学出版会
2021（令和3）年10月（森岡卓司「〔地域〕の再発見—基地闘争下の共同制作童話「山が泣いてる」」
収録）

研究成果（その他）

【書評】森岡卓司「柴田勝二著『谷崎潤一郎論—美と生命の間』（勉誠出版，二〇二一年）」日本
比較文学会『比較文学』64巻 2022（令和4）年3月

教育，地域連携等の活動

【新聞書評記事】石井正己『感染症文学論序説』／『山形新聞』2021（令和3）年7月11日

研究・教育活動に関するコメント

学会の運営に邁進しました（日本比較文学会事務局理事，日本近代文学会評議員運営委員，日本
文芸研究会常任委員，等々）

安田 均

研究成果（論文）

「マルクスのアソシエーション論とその制約」（法政大学『経済志林』89-2,2022.3）

研究成果（学会発表）

「マルクスのアソシエーション論とその枠組み」（第47回仙台経済学研究，21.08.21,Zoom形
式），

「マルクスのアソシエーション論」（SGCIME 夏期研究，2021.08.28,Zoom形式）

研究成果（その他）

「経済指標の解説」（連合山形『春闘パンフレット』2022.1）

教育，地域連携等の活動

・教育

経済原論1/2，市場と組織，地域社会論，労働と生活，特別プログラム演習

・社会連携

公開講座「働き方はどうなるの？」（人文社会科学部公開講座『2020年代の日本社会を展望する』
第1回，2021.9.14, Zoom形式）

出張講義「労働市場のはなし」（福島県立安積黎明高校，21.11.10, Zoom形式）

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構山形支部運営協議会委員（議長）

研究・教育活動に関するコメント

社会連携も時間の許す限り参加貢献したい。

山崎 彰

研究成果 (論文)

「境界紛争から土地問題へー近世後期のブランデンブルク低湿地開発と地域社会」『西洋史研究』新輯50号 (2021)

教育、地域連携等の活動

- 基盤教育

「近代ヨーロッパ国家の多様なかたち」(教養科目)

- 専門教育

「ヨーロッパ史概論」「ヨーロッパ史特殊講義 b」「ヨーロッパ史演習」(前・後期)「専門英語演習 (歴史学)」a, b「卒業論文」

以上の他に山内勅東海大山形高元校長との「教職実践演習 (社会科)」

研究・教育活動に関するコメント

- 2022年度に刊行予定の『近代ドイツ農村社会の誕生』(刀水書房)の準備をした。

山田 浩久

研究成果 (著書)

漆原和子, 藤塚吉浩, 松山洋, 大西宏治編 (2021)『図説 世界の地域問題100』

研究成果 (論文)

山田浩久 (2021) COVID-19の感染拡大が地方県の観光行動と住民生活に与えた影響に関する一考察. 季刊地理学, 73-1, 11-19. (査読あり)

山田浩久 (2022) 2010年代前半の東北地方における観光関連産業の空間的特徴, 山形大学人文社会科学部研究年報, 19, 45-69. (査読あり)

山田浩久 (2022) 「不動産取引価格情報」を用いた分析から RESAS「不動産取引」の活用方法を考える. 2021年度 RESAS (地域経済分析システム) を活用した政策立案に関する調査報告書, 51-64, 東京大学地域未来社会連携研究機構. (査読あり)

山田浩久 (2022) 天童市田麦野地区. 令和3年度地域づくり活動調査研究事業 地域実態調査研究報告書. (査読なし)

研究成果 (学会発表)

山田浩久: RESAS「不動産取引」の見方と考え方. 東京大学地域未来社会連携研究機構シンポジウム「RESAS を活用した政策立案の現状と課題」の公開シンポジウム (オンライン), 2022年2月.

研究成果（その他）

山田浩久（2021）【書評】西城 潔・藤本 潔・黒木貴一・小岩直人・楳原京子（2020）『地形でとらえる環境と暮らし』（古今書院），人文地理，73-2,228-229.（査読なし）

教育，地域連携等の活動

担当授業

学部教育

- 人文地理学概論，地域構造論，地誌学，地域構造論演習，ツーリズム産業論，総合講座1，地域課題実践演習 A

大学院教育

- 都市計画特論，都市計画特別演習

きらやかマネジメントスクール

- 地域資源活用

自治体職員講習

- 山形県職員研修講師

学外の審議会，委員会

- 国土交通省東北ブロック地理空間情報産学官地域連携協議会議長
- 山形市立地適正化計画専門家会議議長
- 山形市中心市街地活性化戦略本部部員
- 天童市環境審議会議長
- 山辺町総合戦略有識者会議議長
- 山形県立上山明新館高等学校学校評議委員
- くらすべ山形！移住・定住推進懇談会座長
- 東北地理学会評議員
- 日本観光研究学会東北支部幹事
- 経済地理学会北東支部支部幹事

研究・教育活動に関するコメント

平成30年度に採用された科研費基盤研究（B）（課題番号：18H03457，研究代表者：山田浩久）が，COVID-19の感染拡大によって海外調査が一切できなかったことから1年の延長を余儀なくされた。また，国内移動に関する制限も多く，学会報告がオンラインでの1本にとどまった。しかしながら，じっくり物事を考える時間が増えたことで，地域産業連関分析による地域循環共生圏に関する論文を作成し，RESASを活かした新しい分析方法を考案することができた。また，数年ぶりに書評を書く余裕も生まれた。忙しく飛び回ることだけが新たな発想に繋がるわけではないことを実感した1年であった。

地域連携に関しては，国土交通省の東北ブロック地理空間情報産学官地域連携協議会の座長を継続して務め，新たなワークショップによる成果を上げることができた（オンライン）。また，山形市の中心市街地活性化基本計画，山辺町の総合戦略に関わる議論にも継続して参画したほか，

新たに天童市の環境審議会議長として同市の環境基本計画の策定に携わった。こうした活動は学生教育にも反映され、10名のゼミ生の半数が公務員として巣立っていった。

山本 睦

研究成果 (著書)

関雄二 (監修), 山本睦, 松本雄一 (編)

2022 『アンデス考古学ハンドブック』臨川書店。

Luisa Díaz, Oscar Arias y Atsushi Yamamoto (eds.)

2021 Paisaje y Territorio en los Andes Centrales; Prácticas sociales y dinámicas regionales, Fondo Editorial de la Universidad Nacional Mayor de San Marcos, Lima.

研究成果 (論文)

松本雄一, 山本睦

2022 「序章—アンデス文明研究とその背景」関雄二 (監修)・山本睦・松本雄一 (編) 『アンデス考古学ハンドブック』臨川書店, pp. 7-20。

2022 「周囲の神殿ではなにがおきていたか—文明の形成を端から眺める」関雄二 (監修)・山本睦・松本雄一 (編) 『アンデス考古学ハンドブック』臨川書店, pp. 151-168。

2022 「序—国家, 帝国, 狭間の社会」関雄二 (監修)・山本睦・松本雄一 (編) 『アンデス考古学ハンドブック』臨川書店, pp. 174-179。

山本睦・松本雄一

2022 「序 形成期という時代, 神殿更新論という視座」関雄二 (監修)・山本睦・松本雄一 (編) 『アンデス考古学ハンドブック』臨川書店, pp. 22-31。

2022 「序 考古学は過去だけを対象とするのではない」関雄二 (監修)・山本睦・松本雄一 (編) 『アンデス考古学ハンドブック』臨川書店, pp. 308-311。

Atsushi Yamamoto

2021 The Emergence of Social Complexity in Northern Peru: A Diachronic Perspective from the Huancabamba Valley. In *The Archaeology of the Upper Amazon: Complexity and Interaction in the Andean Tropical Forest*, Ryan Clasby and Jason Nesbitt (eds.), p.83-105. University Press of Florida.

2021 La transición del paisaje en el valle de Huancabamba durante el Periodo Formativo (3000-1 a.C.). En *Paisaje y Territorio en los Andes Centrales: Prácticas sociales y dinámicas regionales*, Luisa Díaz, Oscar Arias y Atsushi Yamamoto (eds.), p.71-91. Fondo Editorial de la Universidad Nacional Mayor de San Marcos, Lima.

2021 Complexities of regional and interregional interactions during the Formative Period in northern Peru: New perspectives from Ingatambo, Huancabamba Valley. *Anthropological Science* 129(2): 133-143.

研究成果 (学会発表)

山本睦

2022 「ペルー北部の形成期社会にラクダがもたらしたもの—形成期中期から後期の社会変化とラクダの社会的位置づけ—」「出ユーラシアの統合的人類史学—文明創出メカニズムの解明—」第6回全体会議, オンライン・ポスター発表, 2022/1/8-9.

山本睦, 鶴見英成

2021 「ペルー北部におけるリャマの重要性とその社会的位置づけ」, 第26回古代アメリカ学会研究大会。法政大学, オンライン。(口頭発表)。12月4日。

鶴見英成, 大谷博則, 松本剛, 渡部森哉, 山本睦

2021 「航空古写真による地形と遺構の復元: ペルー北部ヘケテペケ川流域を中心に」, 第26回古代アメリカ学会研究大会。法政大学, オンライン。(口頭発表)。12月4日。

Luisa Díaz, Óscar Arias, Atsushi Yamamoto

2021 Presentación de publicación, Paisaje y territorio en los Andes Centrales; Prácticas sociales y dinámicas regionales. VIII Congreso Nacional de Arqueología, Perú. 2021年8月21日。

Yamamoto Atsushi, Juan Pablo Vargas and Oscar Arias Espinoza

2021 “Investigations in the Valley of Cañar, Ecuador: Preliminary Results at Cerro Narrio and Loma de Pinshul”. 86th Annual Meeting, Society for American Archaeology. Online. 2021年4月17日。

研究成果 (その他)

山本睦

2022 「考古学的視点からのコメント: 形成期のペルー北部社会におけるリャマとそれをもたらした人々」, 基盤研究 (A) 「アンデス文明における権力生成と社会的記憶の構築」基盤研究 (B) 「生物考古学資料にもとづく古代アンデス社会の複雑化過程の解明」2021年度合同研究会。オンライン。2022年1月26日。

2022 「ペルー北部の形成期社会にラクダがもたらしたもの—形成期中期から後期の社会変化とラクダの社会的位置づけ—」(ポスター発表), 「出ユーラシアの統合的人類史学—文明創出メカニズムの解明—」第六回全体会議『文明形成とコンフリクト』。岡山大学およびオンライン。2022年1月8-9日。

2021 「アンデスとの出会い, アンデスでの出会い」, 「地域芸能と歩む」レクチャー・シリーズ第3回「出会う その1」, ホテルアンテルーム那覇, 2021年11月14日。

2021 「文化人類学ってなんだろう。フィールドワークのこぼれ話」出張講義。米千葉県立佐原白楊高等学校。(口頭発表)。オンライン。2021年11月18日。

2021 「ペルー北部における形成期の社会変化とその背景」, 「出ユーラシアの統合的人類史学—文明創出メカニズムの解明—」第五回全体会議。オンライン。2021年7月18日。

2021 「ナスカ社会像再考: 近年の調査による新知見をふまえて」アンデス文明研究会。オンライン。(口頭発表)。2021年5月15日。

Atsushi Yamamoto

2021 La Misión Arqueológica Japonesa a los Andes y su aporte a la investigación del pasado peruano. Patrimonio arqueológico peruano; Perspectivas desde la colaboración Perú-Japón, オンラインウェビナー。在日本ペルー大使館。2021年9月24日。

2021 Interacciones en frontera; El sitio de Inगतambo, valle de Huancabamba, durante el Periodo Formativo. Expedición Virtual hacia los Confines de la Arqueología del Nor Oriente Peruano. Centro de Estudiantes de Arqueología Amazonas, 2021年6月5日。

教育、地域連携等の活動

出張講義 (オンライン: 千葉県立佐原白楊高等学校)

ペルー共和国カハマルカ州ポマワカ地区における調査成果報告 (教育機関などへのリーフレットの配布)

研究・教育活動に関するコメント

海外での調査を実施することはできなかったが、「ロンティアからみるアンデス文明の形成過程: 社会の複雑化と地域間交流の相関」(科学研究費補助金21H00640), 「人工的環境の構築と時空間認知の発達」(科学研究費補助金19H05732), 「人工知能を利用した世界遺産ナスカの地上絵研究」(科学研究費補助金20H00041)によって、これまでの研究データを整理・分析し、議論の精緻化に努めた。また、これらの研究成果を、論文や学会、シンポジウムなどを通じて発表した。今後は研究の成果をより積極的に、教育や地域連携へといかしていくつもりである。

吉原 元子

研究成果 (著書)

奥山雅之・加藤秀雄・柴田仁夫・丹下英明編『繊維・アパレルの集団間・地域間競争と産地の競争力再生』文眞堂, 2022年3月 (担当部分: 「第10章 山形横編ニット産地の競争力再生」)

研究成果 (論文)

「コロナ禍における中小企業と支援政策」山形県経済社会研究所『山形県の社会経済・2021年』第34号, 2021年12月, pp.12-21

研究成果 (学会発表)

「繊維産地における分業の再編成とその課題」日本地域経済学会第33回全国大会, 福島大学 (オンライン), 2021年11月

研究成果 (その他)

「雪国から世界へ羽ばたく」株式会社中小企業サポートネットワーク『スモールサンニュース』2022年1月号

「外国人材を成長の原動力に」株式会社中小企業サポートネットワーク『スモールサンニュース』2021年5月号

教育、地域連携等の活動

[教育] 中小企業論 a・b, 中小企業論演習, 企業課題解決型実践演習 a (コヤマ), 企業課題解

決型実践演習 a (トヨタカローラ), 山形から考える地域産業 (山形から考える), 中小企業論特論, 中小企業論特別演習, 特別研究, 社会創造論 II, 修士論文審査 2 件 (主査・副査)

[地域連携等] 山形県国民健康保険運営協議会委員, 山形県建築審査会委員, 山形県農業・農村政策審議会委員, 山形県ベストアグリ賞表彰事業審査員, 山形県労働委員会公益委員, 全国中小企業団体中央会組合資料収集加工事業調査研究委員会委員・事業継続力強化計画普及推進事業中央会指導員向けマニュアル策定委員会委員, 山形県中小企業団体中央会取引力強化推進事業に係る選考委員, 一般財団法人商工総合研究所中小企業組織活動懸賞レポート審査委員, 公正取引委員会独占禁止政策協力委員

千葉県官公需適格組合受注促進協議会講習会講師 (6月), きらやか銀行新規事業進出支援研修会講師 (11月), 愛媛県官公需適格組合連絡協議会研修会講師 (12月), 山形県労働委員会出前授業 (荒砥高校) 講師 (2月)

[高大連携] 山形東高校郷土山形企業等研修講師 (9月)

[受託事業] 山形県村山総合支庁「令和3年度働いてよし, 暮らしてよし村山の企業情報発信事業」(実施協力: 本多広樹先生)

[学術指導] 株式会社スガサワ「企業の人材育成・研修支援の実施」

研究・教育活動に関するコメント

入試小委員長の任を果たすことができてよかった。科研費基盤 C の 1 年目であったが, 思うように進められなかったので今後挽回したい。

Stephen Ryan

研究成果

教育, 地域連携等の活動

- 担当授業: (基盤教育) 総合英語, コミュニカティブ英語,
(専門教育) 英作文 (上級) 英語コミュニケーション (上級)
(大学院) 現代外国語 (英語) (異文化間コミュニケーション論特論 I・II (英語))
- 山形大学カーボンニュートラル研究センター関係者

研究・教育活動に関するコメント

Research theme: cross-cultural studies, intercultural communication

渡辺 文生

研究成果 (論文)

渡辺文生「講義ノートの分析に基づく日本語母語話者と学習者による講義理解ストラテジーの対照研究」『2021 CAJLE Annual Conference Proceedings』pp. 222-228. カナダ日本語教育振興会

研究成果 (学会発表)

渡辺文生「講義ノートの分析に基づく日本語母語話者と学習者による講義理解ストラテジーの対照研究」2021 CAJLE Annual Conference, University of Alberta, Edmonton, Alberta, Canada (Online) 2021.08.18-19

教育、地域連携等の活動

担当授業は、日本語文法特殊講義 b, 日本語文法演習 (前期), 日本語 b, 日本語文法演習 (後期), 日本語文法概論, 日本語文化論, 卒論演習 1, 卒論演習 2 《以上学部専門科目》, 日本語意味論特論 II, 日本語文法論特論, 日本語文法論特別演習, 地域創生・次世代形成・多文化共生論, 社会文化創造論 II 《以上大学院科目》, 言語コミュニケーションのストラテジー (人間を考える), 日本語上級 2 「書く」《以上基盤教育科目》。地域貢献等の活動としては、仙台向山高等学校オンライン講義 (2021.10.19) を行った。

研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、研究代表者として関わる基盤 (C) の科学研究費プロジェクトの研究を中心に、学会発表と論文を執筆した。そのほか、1 件の科学研究費プロジェクトに研究分担者として従事した。教育活動については、学部の卒業論文 1 名の主指導・3 名の副指導、および、大学院の修士論文 4 名の副指導を行った。

渡辺 将尚

研究成果

教育、地域連携等の活動

研究・教育活動に関するコメント

当初 3 年間の計画で交付を受けていた科学研究費補助金「基盤研究 (C)」の、延長 1 年目の年度であった。本年度は、戦後ドイツの 3 つの大きな歴史論争を分析する当研究のうち、3 つ目の「ゴールドハーゲン論争」(1996年) の分析に取り組み、国内で入手できる文献のみを使った作業とならざるを得なかったものの、当初計画に劣らない十分な成果を上げることができたと考えている。なお、当該成果については、2023 年度のできる限り早い時期に単著書籍として内外に公表する予定である。